

AEON



木を植えています

私たちはイオンです

イオンモール サステナビリティレポート

未来への報告書

2008



AEON
MALL

イオンモール株式会社

イオンモールが展開する大型ショッピングモールは、単なる専門店の集まりではありません。
お客さま、地域みなさま、テナントみなさまとともに創る「まち」。

地域の新たな魅力を育て、こころ豊かな文化を発信する「輝きのあるまちづくり」に向けて、
「お客さま第一」を基本理念に、パートナー企業とともに心をひとつにして取り組んでいきます。

お客さま第一

「パートナー」とは： 地域社会、行政、NPO、テナント企業、協力企業、地権者、投資家など、まちづくりにかかわるすべての人を指します。

ひと、まちも、きらきら。

【グローバル5】

- 2017 イオンモール国内外150体制
- 2017 働きたい企業・働きたいモール・ナンバー1
- 2017 RSCビジネスモデルを超えた新領域でオンリー1
- 2017「驚き、感動、喜び」のある最高のサービスで、人気スポットナンバー1
- 2017 環境マネジメントモール世界ナンバー1

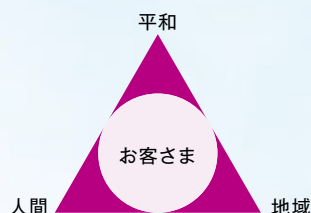


イオンとは

「イオン」は、事業持株会社であるイオン株式会社を中核に、国内外169の企業で構成される小売り企業グループ。お客さま第一の国際的な企業集団をめざして、強固なグループ経営体制を構築しています。

イオンの基本理念

イオンは「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という不変の理念を堅持し、その具現化のための行動指針である「イオン宣言」を胸に、「お客さま第一」を実践してまいります。



イオン宣言

イオンは、日々のいのちとくらしを、開かれたところと活力ある行動で、「夢のある未来」(AEON)に変えていきます。

イオンモールは、「イオン」の一員です

イオンモール株式会社は、ショッピングセンター(SC) 専門ディベロッパーとして、大規模複合型SCの開発と管理運営を通じて、地域社会の発展と文化の向上に寄与しています。

会社概要 (2008年2月20日現在)

社名	イオンモール株式会社
設立年月日	1911年11月
資本金	166億62百万円
所在地	千葉県千葉市 美浜区中瀬一丁目5番地1
SC数	46カ所展開
事業内容	大規模地域開発及び ショッピングセンター開発と運営 不動産売買・賃貸・仲介 [国土交通大臣(1)第7682号]
従業員数	618名

もくじ

トップ・コミットメント	2
経営の現状と展望	
経済報告	4
国際戦略	6
イオンモールのCSR	
CSRビジョン	7
SCのCSR基準	8
特集 環境リーディングカンパニーをめざして	
CO ₂ 削減中期戦略	10
CO ₂ 削減ステップ	12
2007年度 環境パフォーマンスデータ	14
SCの環境パフォーマンスデータ	16
環境コミュニケーション	18
新規オープン店での取り組み	
イオンモール羽生	20
イオンモール日の出	22
社会とともに	
地域との共生	24
子どもたちの未来のために	26
社会とのつながりを深めるために	28
働きやすい会社	
人事・教育研修	30
SR会計	32
第三者意見	33

編集方針

この報告書は、イオンモール株式会社が果たすべき社会的責任の目標に対して、2007年度中にどこまで達成できたか、今後の課題は何かについて、議事録やデータ、各部署への取材をもとにレポートしたものです。各種ガイドラインの項目にはこだわらず、イオンモールがめざす「街づくり」の観点から編集しました。当社にかかわるすべての人たちが、「誇り」に思えるようなより良い企業に日々一歩でも近づいていきたい。さまざまな思いを込めて、ご報告いたします。

報告対象期間

2007年2月21日～2008年2月20日
(対象期間外のものに関しては、その都度表記しています)

*SC: ショッピングセンターの略

*この報告書で「イオン」はイオン(株)及び関連会社を指します。



CSR 機能の充実なくして、 社会の信用は得られない

イオンモールは2017年の経営ビジョンの中で「世界ナンバーワンの環境マネジメントモール」を打ち出しました。企業人である前に「地球人」であり「生活者」として環境問題に取り組むことが重要であると考えたからです。

私は、ショッピングセンター(SC)には4つの機能があると思います。一つ目がお買い物を楽しんでいただくショッピング機能、二つ目が地域の伝統行事やお祭り、文化活動、献血活動などのコミュニティ機能、三つ目が物を買うだけでなく、心豊かに映画などを楽しんでいただくエンターテインメント機能、そして四つ目がCO₂を削減したり、人にやさしいユニバーサルデザインを施設に取り入れるなどしたCSR (Corporate Social Responsibility) 機能です。

とくに四つ目は、企業が社会から認めていただくための重要な機能です。なかでも、いま世界的な課題になっている地球温暖化をはじめとする環境問題に関しては、イオンモールという企業として取り組むのは当然ですが、一人ひとりの従業員が毎日の生活でも環境を意識して行動する、そうしたスキルを身に付けることが、当社のもう一つの大きな使命であると認識しています。

環境に配慮をしながら地域活性化を促す

モールビジネスのノウハウは、海外でも十分に役立てることができると思います。2008年秋にはイオンとともに中国・北京に大型ショッピングモールを開業し、将来的に東南アジアでのモールビジネスを積極的に展開する方針です。

合併によるエネルギーを 社会に役立てることが求められる

イオンモールは、2007年8月21日にダイヤモンドシティと合併し、日本最大のモールビジネスを展開する企業になりました。私は、この合併は「心と心の合併」であると社員に語ってきましたが、幸い、社員たちはみな「新しい会社をみんなで創ろう」という意気込みで取り組んでいます。このエネルギーを新生イオンモールの成長に役立たせるだけでなく、より良い社会をつくるために使うことが必要であると考えています。

私たちはSC開発のパイオニアとして、地域の生活者に新たな価値を創造し続けてきました。いま求められているのは、地域活性化のお手伝いです。ここ数年、全国各地から「まちづくりを手伝ってほしい」という切実な声が寄せられ、街を再生したいという強い思いが伝わってきます。イオンモールが蓄積してきたモールビジネスのノウハウを駆使して、SCをオープンさせることは、「輝くまちづくり」のお手伝いをさせていただくことだと考えます。

従業員一人ひとりが誇りと自覚を持って
地域社会の課題解決に真摯に取り組む企業でありたい。

イオンモール株式会社 代表取締役社長

村=教行



地域社会に「団欒」を復活

イオンの基本理念は、「お客さま第一」の姿勢を貫くことです。いま、お客さまが求めているものは何かと考えると、それは「コミュニティの創造」だといえます。2007年11月にイオンモール羽生をオープンさせたとき、15歳の少女からこんな声をいただきました。「イオンモール来ると、おばあちゃんが楽しそうです。家族で出かけることが多くなって、話題が増えました」という内容でした。

ご家族が一家で楽しく買い物をされ、そのことを話題に会話がはずむ……。日本人が忘れかけた「団欒」が、イオンモールを一つの場として復活しているのです。

イオンモール日の出では地域の成人式を開催しました。それまでは、地域の公民館で開催していたのですが、いかにも成人式にふさわしく、晴れやかで、多くの人に祝福されながらの成人式になりました。このほか、お子さんからのお願いでお母さんのための誕生日コンサートを開くなど、各地域ごとに人々の生活になくてはならない存在になっています。

このように、私たちのモールがある地域ではコミュニティが育っています。青森県のイオンモール下田は、オープンしてから14年経ちますが、その地域で唯一人口が増えました。2007年秋にオープンしたイオンモール日の出では、オープンしてから地域の住民が

150世帯増加しました。

モールが、地域の新しい魅力を生み出し、コミュニティの活性剤となっているのです。

従業員が誇りを持って CSRに取り組める企業として

企業の使命として、従業員一人ひとりが働きやすい職場環境をつくることも非常に大切です。女性が育児しながら仕事を続けられる職場づくりもその一つです。いま、女性のリーダーも育っています。働きやすい企業となるためには、従業員同士が、お互いに仕事や家庭について忌憚なく話し合える風土づくりが必要です。こうした従業員同士の結びつきから、さらに家庭や地域の活動にまで広げていく。会社、家庭、地域が一体となってより良い関係を築いていくことが、ほんとうの意味でイオンモールが地域社会の中に根づくことにつながると思います。

イオンモールは合併を機に、名実ともに業界のナンバーワン企業になりました。従業員たちが、リーディングカンパニーの誇りと自覚を持ちながら、自分たちが率先して行動することが社会を変えていく大きな力になると認識し、最重要課題である環境対策や地域社会づくりに取り組んでいきます。

私たちのCSRは、そんな一人ひとりの思いの積み重ねなのです。



2017年「グローバル5」をめざして。

46SC体制

2007年8月21日にイオングループのダイヤモンドシティと合併し、新生イオンモールとして新しいスタートを切りました。11月には、イオンモール羽生(埼玉県)、イオンモール日の出(東京都)をグランドオープン、既存SCに関しても、11月にイオンモール川口キャラ(埼玉県)、イオンモール千葉ニュータウン(千葉県)の増床・リニューアルを実現し、46SC体制を実現しました。

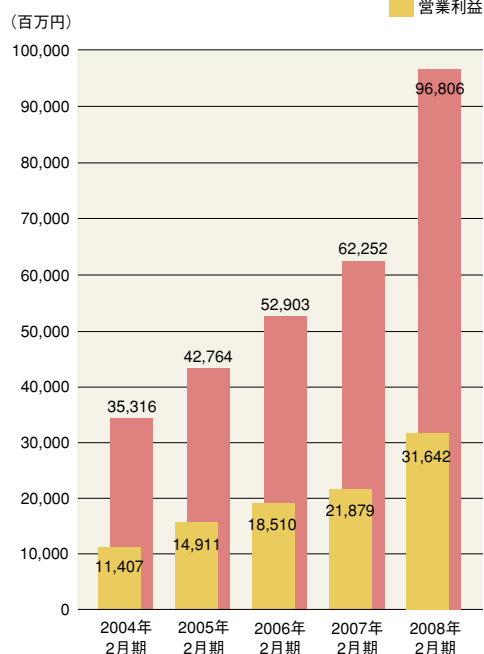
合併を活かしたこれらの積極的な展開により、2007年度イオンモールの業績は大幅に伸長しました。営業収益は、ダイヤモンドシティ19SCの増加269億300万円に加え、新規開設5SC(前連結会計年度3SC、当連結会計年度2SC)の寄与もあり、968億600万円(対前期比155.5%)となりました。営業利益は316億4,200万円(同144.6%)、経常利益は306億8,100万円(同147.5%)、当期利益174億3,900万円(同143.2%)で、19期連続で増収増益を達成しました。

格付けA+を取得、資金調達の機動性を高める

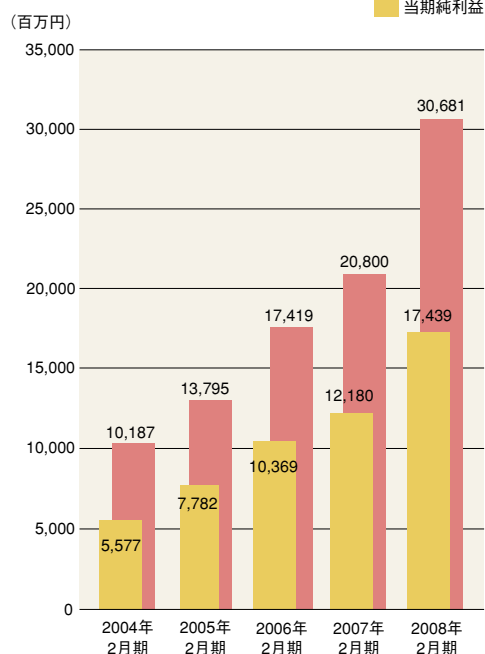
2007年度の資産合計は3,776億6,100万円(対前期比1,446億300万円増)、流動資産は178億3,200万円(同67億増)となり、固定資産は3,598億2,900万円(同1,379億300万円増)となりました。また、負債合計は2,549億2,700万円(同819億400万円増)で、これらの結果、総資産に占める負債比率は前年度74.2%から67.5%に低下し、有利子負債比率に関しても同様に34.3%から22.3%に低下、財務体質の強化を図ることができました。

わが国の経済は、米国のサブプライムローン問題による世界同時株安、米国経済の減速などによって景気の先行きに不透明感が増しています。さらには原油価格、原材料価格の高騰などによる消費者物価の上昇によって、消費者の選別消費がいっそう厳しくなっています。そうした状況下で、財政の健全性を高め、資金調達の多様化、安定化を図り、機動的な資金調達体制を確立するため、2008年4月7日付けで株式会社格付投資情報センター(R&I)よりA+の格付けを取得しました。

売上高と営業利益



経常利益と当期純利益



2010年 営業収益2,000億円をめざす

2007年度、イオンモールは2017年に向けた経営ビジョンを策定しました。世界のディベロッパー面積ランキングでベスト5に相当する「グローバル5」入りをめざすとともに、新領域のビジネスモデルを開発し、オンリーワンの存在となること、従業員満足向上をさせること、世界トップクラスの環境マネジメントモールとなることなどです。

グローバル5をめざす第一ステップとして、2008～2010年度の中期経営計画では、①新規モールの出店拡大、②モール収益力の向上、③国際事業の本格的な展開、④活性化ビジネスへの取り組みを推進し、2010年度の小売売上高2兆円、営業収益2,000億円、経常利益600億円の目標を掲げています。

初年度となる2008年度は、組織基盤の強化のため、内部機構の改革にも着手しました。地域で機動性を高めた営業組織とし、東日本、西日本、九州などのエリア別開発体制を強化しました。リスク管理やコンプライアンス強化、内部統制に向けたマニュアル整備なども力を注いでいきます。

国内では秋以降、イオンレイクタウンKAZE

外部からの評価

- 日本経済新聞社 日経多角的企業評価システム「プリズム(PRISM)」1,033社中48位
- 大阪・心ふれあいまちづくり大賞「大阪市長賞」受賞 イオンモール鶴見リーファ
- 日本ショッピングセンター協会 第3回日本SC大賞2008「人にやさしいSC賞」受賞 イオンモール下田
- 「Chain Store Age」誌「ストア・オブ・ザ・イヤー2008」第1位 イオンモール羽生
- 織研新聞社 第10回ディベロッパー大賞「新人賞」受賞 イオンモール羽生

街区(埼玉県)、イオンモールミエル都城駅前(宮崎県)、冬にイオンモール草津(滋賀県)、イオンモール筑紫野(福岡県)の出店を予定しています。また既存店の活性化は、2008年度は11SCで取り組みます。

海外ではオリンピックが開催される中国・北京市昌平区に、イオンとともに「北京イオン国際商城ショッピングセンター」を開業、アジア展開の第一歩とします。

こうした基盤を原動力に、2017年度に国内外150体制を確立、「働きたい企業・働きたいモール・ナンバー1」をめざします。



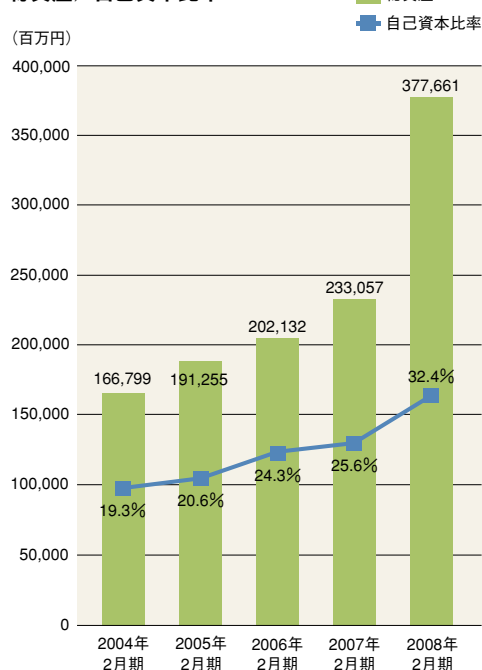
FTSE4 Good 指数シリーズに選定

イオンモールは、2005年3月に、「FTSE4 Good 指数シリーズ」銘柄に選定されました。これは、環境保全やステークホルダーとの関係、人権への配慮の3つの観点から企業を評価する世界的な社会責任投資(SRI)指標のひとつです。2008年3月の見直しで、4年連続で組み入れられました。



日本政策投資銀行より、環境への配慮が「特に先進的」の評価を取得、最優遇金利で資金を調達しています。

総資産／自己資本比率



グループの保険代理事業を統合 イオン保険サービス株式会社誕生

イオンモールでは1973年に保険事業を開始して以来、モールに来館されるお客さまとイオンの従業員、専門店向けに損害保険と生命保険を提案してきました。2008年2月21日、グループにおける保険代理店事業を統合し、営業ノウハウや人材を共有化し、経営資源をより有効に活用することを目的に、イオン株式会社、イオンクレジットサービス株式会社の保険代理業が統合、イオン保険サービス株式会社が新たに誕生しました。

これからも全国のショッピングモールを中心に、お客さまに親しみやすく、信頼いただける来店型保険ショップを運営するとともに、ショッピングモールの安全をサポートしていきます。



イオンモール熊本クレアが「くまもとUD大賞」を受賞

2007年11月23日、イオンモール熊本クレアは、車いすの方や高齢者、お子さまづれ等の多様な利用者に配慮した設備の充実度や、わかりやすい誘導サインなど、ユニバーサルデザインへの取り組みが評価され「県民が、見て触れて、使って選ぶ『くまもとUD大賞』」を受賞しました。

イオンモールならではのノウハウを注ぎます。

環境対策やテナントとのパートナーシップなど、



■常務取締役 戦略本部長
平林 秀博

国内46SCの経験とノウハウを武器に

イオンモールは2008年秋、中国・北京に、ショッピングモールを出店します。現在の中国は、経済発展の最中にあり、8月の北京オリンピック、2010年の上海万博を控え、消費者の意識も大きく変化してきています。モータリゼーション化の流れも、イオンモールが日本で郊外型ショッピングモールをスタートさせた時代に非常によく似ており、まさにショッピングセンターエイジ幕開けの時期といえるでしょう。

すでに北京には世界の小売業、ウォルマートやカルフルといった名だたる企業が進出していますが、当社のような郊外型ショッピングモールはまったく無いに等しいといえます。日本で蓄積したノウハウを活かし、2核1モール型のスタイルを基本に、北京の市場に合わせた中国バージョンをつくりあげていきます。

キーワードは「安全・安心・清潔」

日本からのテナントも数多く誘致し、中国市場にとって魅力あるショッピングモールとする予定です。私たちの中国への出店は、中国にビジネス展開をしたいが商習慣の違いなどでチャレンジを迷っている日本の商業者の後押しにもなると考えています。

中国と日本とでは、消費者のライフスタイルや考え方、テナントとの契約やさまざまな交渉などが大きく異なります。しかし、単なる不動産ではなく、地域と一体となり、地域になくてはならないショッピングモールをテナントとともに創り上げていくことは万国共通です。

「安全・安心・清潔」をキーワードにモールを運営していくこと、CO₂の削減、ごみの分別やリサイクル、植樹活動など、国内と同じ最高の基準をめざします。

真のグローバルカンパニーとして

イオンモールの長期ビジョンの「グローバル5」は、名実ともに世界に評価される企業になることを意味します。そのためには単に海外への事業展開だけではなく、当社の経営のマネジメントシステムやビジネスプロセスのグローバル化も推進していかなくてはなりません。そして真のグローバル企業へと脱皮していくことこそが、将来の成長と発展を約束するものなのです。

本年はまさにグローバル化元年。イオンの総力を結集して北京1号店を成功させ、ここをベースに、長期目標である2017年海外50ショッピングモール体制の実現に向け、本格展開を図ってまいります。



永旺国際商城購物中心（中国・北京）
2008年秋オープン予定

経営ビジョン実現へのステップだと考えています。

CSRを果たす取り組みが、

モールに関わるすべてのスタッフと「お客さま第一」を実践

新生イオンモール誕生にあたって、私たち従業員はもとより、清掃・警備などモールの運営管理に関わるパートナー企業やテナントの従業員とともに「お客さま第一」の価値観を共有し、「輝きのあるまちづくり」に貢献し続けていくことを経営理念に掲げました。めざすべき企業像として「2017年グローバル5」の経営ビジョンを提示しています。私たちのCSRは、そのビジョン実現のための日々の取り組みでもあります。

ショッピングモールの安全・安心に配慮し、「驚き、感動、喜び」をお客さまに提供していくこと。地域の経済的発展に寄与するとともに、地域の交流に貢献し文化を育てていくこと。環境に徹底的に配慮したショッピングモールとなること。そして、イオンモールで働くすべての従業員とモールに関わるすべての人が、やりがいを持って仕事に取り組める環

境を整備していくこと。

10年後、20年後の地域の姿を見つめながら、いま果たすべき社会的責任の取り組みを進めています。

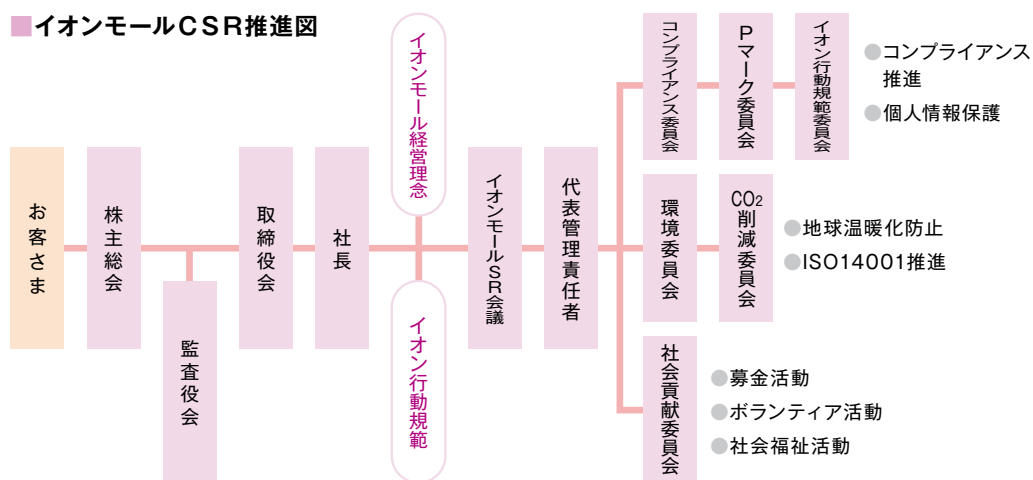
毎月1回「イオンモールSR会議」を開催

イオンモールでは全社を挙げてCSRに取り組むために、毎月1回、社長を議長とし、取締役を委員とした「イオンモールSR(Social Responsibility) 会議」を開き、コンプライアンス(法令順守)や環境、社会貢献に関するテーマを討議しています。

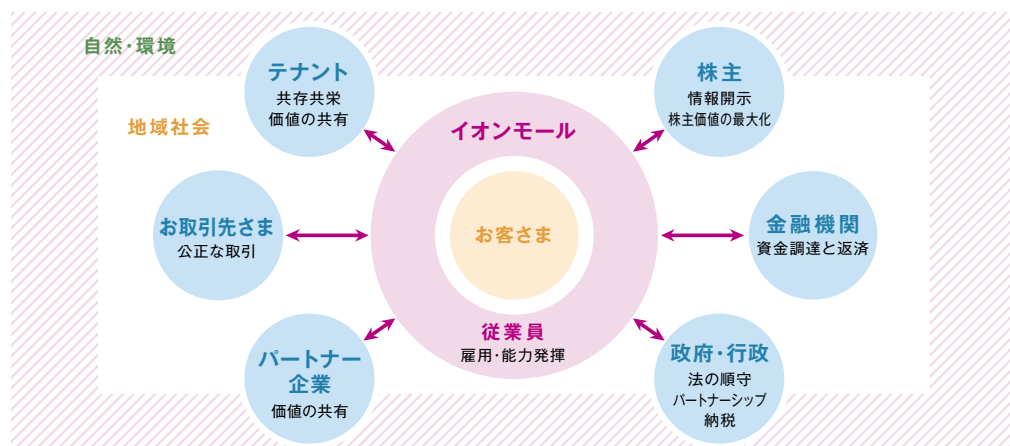
2007年度は、ダイヤモンドシティとの環境マネジメントシステムの統合と、CO₂削減に向けた活動の強化、社会貢献マニュアルの整備に取り組みました。

2008年5月には管理本部組織内にCSR推進部およびCO₂対策グループを新たに設置。CO₂排出削減をさらに推進し、CSRのPDCA体制を強化していきます。

■イオンモールCSR推進図



■イオンモールのCSRの視点



*CSR (Corporate Social Responsibility) 企業の社会的責任

モールの開発から運営まで 私たちが果たすべき社会的責任。

果たすべき 責任

環境 への 取り組み

地域 との共生

従業員 とともに

出店地域の選定

地域のニーズに
合った出店

- 地域の生態系・
生物多様性への配慮



イオンモール日の出屋上より
周囲を望む

モールの設計・建設



設計段階から
環境への配慮

- 環境設計 →P12～

環境負荷の低いモール設計

太陽光発電、屋上緑化

省エネ型整備の導入

リサイクル資材の採用



自然エネルギーの導入も
テーマのひとつ

オープンに向けて ～出店計画・交渉～



驚き、感動、喜びのある
テナント構成
地元テナントの
発掘・出店



アパレルメーカーと開発した
「FLAXUS」



ペットボトル再生繊維を使った
エコタペストリー

- 商圏調査・交通調査
- 地元の要望のヒアリング



住民説明会

- 建設時の振動・騒音対策



駅とモールとを結ぶバスは、
お客さまの利便性向上とともに
CO2削減にも寄与

- 独自のテナントミックス
(ナショナルチェーン、
地元専門店、地域初出店を
バランスよく配置)

- バス便などの
新增設の交渉 →P18

- 行政窓口、銀行など
公共性の高い
サービスの強化 →P24



土日行政サービスが
受けられると好評

オープン前



地域の一員としてのモール準備、
コミュニケーションのパイプづくり

● 地域のみなさと植樹 →P22



地域本来の植生に配慮した植樹



駐車場では
アイドリングストップを呼びかけ



ごみ保管庫



テナント従業員も参加する
クリーン&グリーン活動

- 交通対策、駐車場対策 →P21
- 館内の案内表示の工夫 →P21
- 消防訓練 →P23
- 車いす駐車場の整備



車いす駐車場



大規模災害に備えて
「バルーンシェルター」も配備



イオンモール大和に開設された
子育て支援拠点「こどもーる」

● 地元従業員の採用と入店前教育 →P21

- 従業員専用コンビニや
育児施設など、福利厚生の充実 →P22
- スキルアップ支援
- テナント従業員の定着と満足度向上

モールの運営



お客さま第一の徹底と
地域貢献活動を通じた
持続性のあるモールづくり

- CO2削減 →P10
- 廃棄物の17分別 →P15
- ゼロエミッションをめざす →P15
- 節水・排水基準の順守 →P15
- テナント従業員への環境教育
- バス利用推進 →P18
- エコドライブの呼びかけ →P19

経営ビジョン

【グローバル5】

2017 イオンモール国内外150体制

イオンモールが創造した「モール」は、地域に愛され、貢献し続けます。

- イオンモールは、圧倒的な数と強い財務体質によって、強固な事業基盤を確立し、一つひとつの「モール」を永続的に発展させます。
- イオンモールは、積極果敢にモールビジネスの進化を図る企業になるため、国内にとどまらず、東南アジアへの展開を推し進め、アジアを代表し、また、世界に通用するグローバル企業になります。

2017 働きたい企業・働きたいモール・ナンバー1

イオンモールの成長を支えるのは「人」であり、一番の原動力です。

〈働きたい企業ナンバー1〉

- イオンモールは、国籍・男女・年齢を問わず、新しい価値観と独創性のある「知」の結集を図り、自由で風通しのよい風土の中、従業員自ら学び、変革と果敢な挑戦をします。
- イオンモールは、人の成功をたたえ、人を認めることはもとより、トップクラスの待遇も実現します。

〈働きたいモールナンバー1〉

- イオンモールは、専門店をはじめ、「モール」で働く全従業員にとって、どこよりも働きやすく、働き甲斐があり、働くことに誇りを感じられる職場づくりを目指します。

2017 RSC ビジネスモデルを超えた新領域でオンリー1

イオンモールは、RSC開発のパイオニアとして、地域の生活者に新たな価値を創造し続けてまいりました。

- イオンモールは、お客さまのくらしや、事業環境の変化を機敏に感じとり、さらに一歩先んじた取り組みを行います。
- イオンモールは、新しいステージへのさらなる飛躍を誓い、RSC 専業ディベロッパーのビジネスモデルという、既定の枠を壊し、他に類を見ない進化した商業施設づくりを通じて、再びオンリーワンの企業を目指してまいります。

2017 「驚き、感動、喜び」のある最高のサービスで、 人気スポットナンバー1

イオンモールは「すべてはお客さまのために」行動し、お客さまから愛されるモールづくりを目指します。

- イオンモールは、お客さまの「こうしてほしい」という要望に応えます。
- イオンモールは、お客さまの「あったらいいな」にも応えます。
- イオンモールは、お客さまの期待を超えた「驚き、感動、喜び」を実現するため、施設、便利さ、テナント揃え、接客で最高のサービスを追求します。

2017 環境マネジメントモール世界ナンバー1

イオンモールは、資源エネルギーを有効に活用し、サービスの質を高めながらも、環境への影響を最小にするモールづくりを通じて、持続可能な社会の実現を目指します。

- イオンモールは、地球資源を保全し、循環型社会の構築を目指すため、ゼロエミッションモールを実現します。
- イオンモールは、地球温暖化防止のため、CO2排出を削減します。
- イオンモールは、従業員全員で環境意識を高め、お客さま・パートナーへの啓蒙活動を続けます。

環境リーディングカンパニーをめざして

「環境フューチャーモール」をテーマに 環境負荷低減のノウハウを積み重ねていきます。

2017年の「環境マネジメントモール世界ナンバー1」の経営ビジョンのもと
イオンモールでは2012年のCO₂排出総量の30%削減(2006年度比)を打ち出しました。
最高水準の環境技術と設備のハードと、運営ノウハウのソフトの両面から
「環境フューチャーモール」の実現をめざします。



CO₂削減委員会 委員長
■専務取締役 開発本部長
山中 千敏

2012年度CO₂を30%削減

イオンモールでは「グローバル5」をめざす経営ビジョンのもと、2017年に達成すべき5つの企業像を掲げています。そのひとつが「2017年 環境マネジメントモール世界ナンバー1」。サービスの質を高めながらも、CO₂排出を削減し、ゼロエミッションを推し進め、環境への影響を最小にするモールづくりをめざそうというものです。

早くからISO14001を取得し、環境負荷の低減に努めてきましたが、低炭素社会への移行が全世界的な課題となっている今、CO₂の排出量をトータルで減らしていくことがリーディングカンパニーとしての社会的責任であると判断し、2012年度にCO₂排出総量を2006年度比で30%削減するというチャレンジングな目標を掲げました。

2006年度のCO₂排出量は42SC計で72万8,500トン、1SCあたり1万7,350トンです。2012年度に総量で30%削減した場合のCO₂量は約51万トンですから、69SCの場合、1SCあたり約7,390トンと、58%もの削減が必要になる計算です。

CO₂対策グループでロードマップづくり

CO₂を半減するためにどんな設備や技術が必要か、設計事務所やゼネコン、設備メーカーなどの知恵を結集しなくてはなりません。まずは2008年冬にオープン予定のイオンモール草津(滋賀県)をモデルに、従来型のモールより3,000トンの削減を目指します。専門の評価チームで導入技術を検証・評価し、「イオンモール版・エコモールガイド」を制定します。

ハードだけでなく、運転管理などのソフトの技術をいかに高めていくか、エコモールを超えた「環境フューチャーモール」実現のために、達成しなければならないハードルはいくつもあります。

全社を挙げてCO₂削減を戦略的に推進するため、2008年5月、CSR推進部およびその配下にCO₂対策グループを新設しました。今後1年かけて、中長期のCO₂削減のロードマップを策定していく予定です。

「環境経営度」調査

倉庫・不動産・その他部門で1位の評価

順位	社名	スコア	運営 教育体制 長期目標	汚染対策 情報公開	資源 循環	温暖化 対策
1	イオンモール	388	100	100	88	100
2	マルハ	346	95	92	100	59
3	三洋電機ロジスティクス	339	83	69	98	89
4	日本綜合地所	300	87	84	83	46
5	三井不動産	276	79	80	73	44

日経産業新聞「第11回 環境経営度調査」2007年12月3日付け記事より

環境方針

イオンモールは、資源エネルギーを有効に活用し、サービスの質を高めながらも、環境への影響を最小にするモールづくりを通じて、持続可能な社会の実現をめざします。

そのため、環境方針を以下のとおり定め、あわせて、多くのお客様さとのコミュニケーションと地域貢献の履行に努めてまいります。

- 1 イオンモールは、地球温暖化の防止のため、CO₂排出を削減いたします。
- 2 イオンモールは、地球資源を保全し、循環型社会の構築をめざすため、ゼロエミッションモールを実現します。
- 3 イオンモールは、お客さまをはじめとするパートナーさまの生活環境の向上と、地域社会の発展と環境保全に貢献します。
- 4 イオンモールは、環境法規制や当社が受け入れを決めた要求事項を順守します。
- 5 イオンモールは、環境マネジメントシステムを構築し、事業部門ごとに目的・目標を制定し汚染を予防する体制を築き、継続的な改善を推進します。
- 6 イオンモールは、従業員全員で環境意識を高め、お客さま・パートナーさまへの啓蒙活動を続けます。
- 7 この方針を当社従業員及びともに働く従業員に周知するとともに、当社の環境情報を公開いたします。

2008年6月13日

イオンモール株式会社

代表取締役社長 村上 教行

環境中期目標

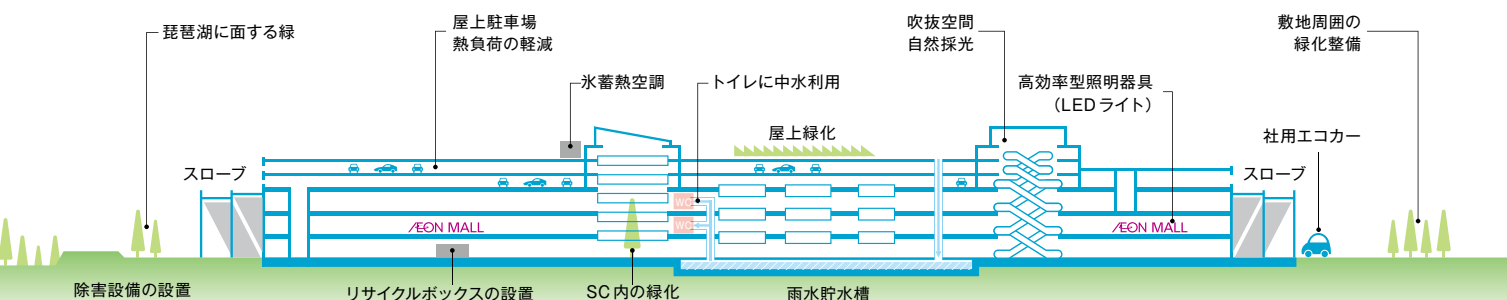
当社は地球温暖化防止のため、CO₂排出量を2012年度までに2006年度比総量で30%削減します。

対象：当社管理の後方・共用部分

2008年度 環境目的 (2010年度までに)

1. 地球温暖化防止のため、CO₂排出を2006年度比20%削減します。
 - (1) CO₂削減可能なショッピングモールへの転換を図ります。
 - ① CO₂削減対応型のエコモールを開設します。
 - ② CO₂削減可能なエネルギーへの転換を推進します。
 - ③ CO₂削減可能な省エネ設備の導入を推進します。
 - (2) CO₂削減可能な運転管理に改善します。(設備管理意識の改革)
 - ① 効率的な設備管理による省エネの効率向上をめざします。
 - (3) CO₂削減のためお客さまをはじめとするパートナーさまへの情報を発信いたします。
 - ① 環境情報を継続的に提供します。
 - ② テナント従業員への環境意識向上のための教育を実施します。
例：マイバッグ持参運動・マイ箸運動・路線バス利用……
2. 地球資源を保全し、循環型社会の構築をめざします。
 - (1) 廃棄物を2006年度比5%削減(売上高原単位)します。
テナントさまに呼びかけ、リサイクルからリユースへの転換の可能性を模索します。
 - (2) 水資源保全のため「中水利用」等を推進します。
 - (3) 「紙の削減」をはかります。
3. 地域の一員として、「安心」「安全」なショッピングセンター作りをめざします。
 - (1) 登録法規制を順守します。
 - (2) 緊急事態の発生を想定し、訓練・対応を徹底します。
パートナーさまもご参加いただき緊急事態対応を実施します。

イオンモール草津に導入予定の環境技術



ハードとソフトの両面で効果的にCO₂削減を進めます。



■取締役 営業本部
SC サポート部長
相馬 勝

省エネルギーは省コストにつながる

SC全体で電力消費の形で排出するCO₂の内訳は、照明40%、空調20%、その他40%ですが、当社が管理コントロールできるエリア（共用部）だけを見れば、空調が65%、照明15%、その他20%となっています。

従ってCO₂削減は、高効率の空調システムの導入が第一です。あわせて現在導入している大型の氷蓄熱システムやイオンモールむさし村山ミューのNAS電池など、夜間電力の活用も推進していきます。既存店の設備も、各種設備へのインバーター設置や高効率機器への入れ替え等を積極的に推進していきます。

CO₂削減すなわち省エネは、省コストでもあり、一方で

は、各種設備機器の省エネ性能も日々向上しており、投資のタイミングや投資コストとその効果のバランスを見定めながら、単位床面積当たりのCO₂排出量を指標にして、総量削減をめざしていきます。

設備運転管理ノウハウの「見える化」を推進

ハードの能力を最大限活かすためには、毎日の運転管理が極めて重要です。各モールでの運転技術の向上とノウハウ蓄積、そしてそれらの水平展開を進め、レベルの平準化を図っていくことで、10～20%程度のCO₂削減を図ります。そのために、設備管理のさらなる標準化とマニュアルの整備、指標数値による徹底した運用管理を進めていきます。

このほか、お客さまの快適さを損なわずに、かつ省エネも図れる、さまざまな運転管理ノウハウの開発も重要なテーマです。

2012年度におけるCO₂の2006年度比30%削減は、総排出量としての削減であり、極めて高い目標であることは事実ですが、ハード面・ソフト面を含めありとあらゆる研究と努力によって、ぜひとも達成しようと決意しています。安易な形で“排出権”に頼るのではなく、可能な限り日々の工夫努力といった“現場の力”を大事にして、CO₂削減の実効性を高めていきます。

大規模商業施設の 省エネ推進のモデルの 役割を期待

■全国小水力利用推進協議会
事務局長
中島 大氏



2007年度から各地のモールを回って省エネの現状をチェックしたり、オペレーションマネージャーを対象にしたセミナーを実施し、省エネを推進する体制づくりのアドバイスをを行っています。みなさん実に真剣に聞いてくださいます。2012年度に向けたCO₂削減方針には正直、その大胆な発想に驚かされましたが、一緒にCO₂削減を推進することができ、とてもやりがいを感じています。



電飾サイン文字に LEDを採用

イオンモール日の出では、電飾サイン文字の光源に「LED光源ユニット」を採用。年間消費電力はネオンの約4分の1で、耐久性は3倍です。3万時間経っても輝度の低下が少なく、環境負荷の低減が図れます。



氷蓄熱冷房で 昼間の空調負荷を平準化

氷蓄熱とは、夜間電力を使って、氷を蓄熱層に貯え、昼間の冷房に使う空調システム。昼間の空調負荷を蓄熱でまかなうことでエネルギー負荷が平準化されるメリットがあり、全国17SCに導入しています。

現場での地道な CO₂ 削減ノウハウの蓄積をサポートしています。

■営業本部 SCサポート部 マネージャー
福田 阜

モールの設備全般のメンテナンスおよび運転管理に関する現場での技術的なサポートを担当しています。既存設備の性能維持と劣化状況を的確に把握し、一方で各種機器の技術的な進歩の状況を踏まえながら、設備機器更新にあたっての最適機器選定と実施タイミングの見極めを行っています。

CO₂削減の観点では、現場の条件にもっとも適した機種を選定はもちろんのこと、その性能を十分に発揮させるための日常の維持管理とスケジューリングされた的確なメンテナンスが極めて重要です。

現場を巡回しながら最適な運転管理をしているかどうかを確認指導し、また現場とのコミュニケーションによりさらなるノウハウの蓄積と水平展開を進め、CO₂削減につなげていきたいと思っています。つねに現場最優先で、現場でのCO₂削減のサポートを心がけています。

教育できる人材を育成

イオンモールでは、全国に点在するモールで環境への取り組みを浸透させ、テナント従業員への指導を徹底するため、内部監査を重視し、計画的に内部監査員の育成を行っています。現在、内部監査員の取得者は302名で、社員増により取得率は48.9%に低下しましたが、継続して育成していきます。教育できる人材を育てることで、内部監査の質が高まると同時に、省エネ活動など課題を解決できる人材が育ち、CO₂削減のレベルアップが図れるものと考えています。



全国のオペレーションマネージャーが集合し、新店の取り組みや各モールでの取り組みの成果を共有



屋上緑化で 省エネにひと役

イオンモール日の出では、屋上にヒートアイランド現象の低減と植物によるCO₂吸収を目的に、約2,400m²にわたりセダムを植えています。室内の断熱効果が期待できます。また壁面緑化にも取り組んでいます。



太陽光発電の 導入を推進

イオンモール日の出と羽生では、屋上や屋根部分に1,000m²に及ぶソーラーパネルを設置しています。クリーンエネルギーでまかなえる電力はわずかですが、お客さまへの啓発効果が高く、今後も導入を推進します。

ISO14001 担当になり 内部監査を経験 数字の意味がわかった

■イオンモール広島府中ソレイユ
オペレーション担当
山本 佳奈



昨年、入社2年目でISO推進担当補佐になりました。これまで環境ISOの知識はほとんどない状態でしたが、合併後初めての内部監査の準備を進める過程で担当になって、120項目をチェックすることで、数字の意味や、ISOの意義が理解できるようになりました。2008年度は本格的にCO₂削減に取り組みます。設備の運転管理の背後の思想を理解して、適切な指示が出せるようになりたいですね。

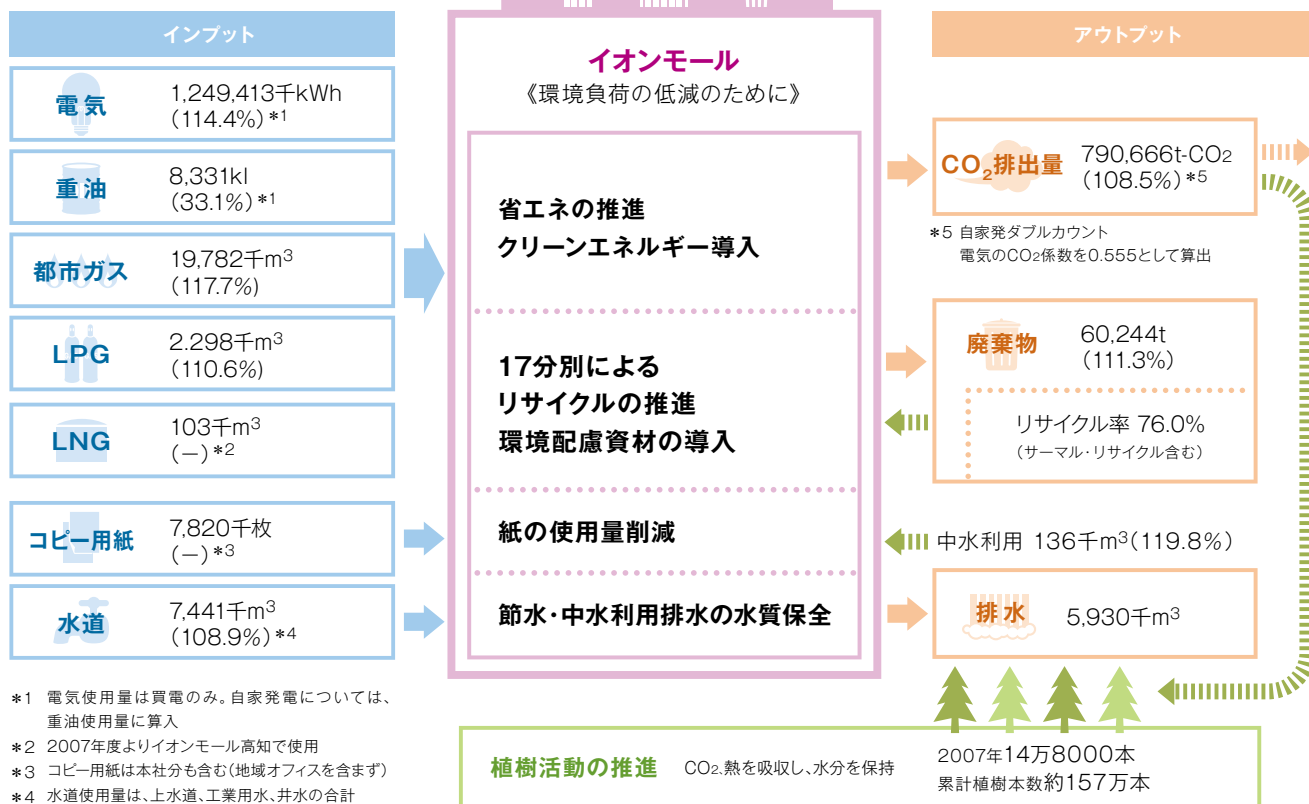
テナントの従業員とともに 環境保全活動のレベルアップを図っています。

2007年度インプット / アウトプット(44SC)

イオンモール名古屋ワンダーシティ、大津ショッピングプラザを除く

※対象は、共有部分、ジャスコ、テナントも含むSC全体
※対象面積＝建物延床面積－立体駐車場面積
2007年度 3,552,625m²(108.0%)
※2007年上期の旧ダイヤモンドシティを含む
2006年度の旧イオンモールと、旧ダイヤモンド
シティを合算し、前年比を算出

()内は対前年比



2008年度に取り組む著しい環境側面

業務	環境側面	環境負荷内容
現在業務	お客さま・従業員が来店・帰宅する	エネルギー・資源を使う
	SC 共用部分でエネルギーを使用する	エネルギーを使う
	SC 館内で空調する	エネルギーを使う
	テナントがエネルギーを使用する	エネルギーを使う
	伝票印刷する	紙を使用する
事故・緊急事態	CO ₂ の2006年度比 総量での排出超過	地球温暖化防止
	浄化槽・下水の排水基準値超過	水質汚濁
	生ゴミ処理機の爆発事故の発生	負傷者の発生・建物損傷
	産廃契約及び許可証の期限切れ	環境法規制の順守
	廃棄物業者	廃棄物処理
パートナーさま	燃料小売業者	ガソリンスタンド
	清掃業者	剥離剤使用
	設備管理会社	地球温暖化防止

事業に関わる主な環境関連法規制

場面	関連法規制
SCの立地に関して	大店立地法・環境アセスメント法
SCの建設・増改築時	建設リサイクル法
事業から出るごみについて	廃棄物処理法
SCからの排水について	下水道法・浄化槽法・瀬戸内海環境保全措置法
SCのエネルギー使用について	地球温暖化対策法・省エネルギー法
設備に関して	
重油タンク	消防法・水質汚濁防止法
常用発電機・ボイラー・冷温水発生器	大気汚染防止法
送風機・クーリングタワー	騒音規制法
設備等の使用済み処理時	
パッケージエアコン・空調用チリングユニット・ガスエンジンヒートポンプ	フロン回収破壊法
冷蔵庫・エアコン・洗濯機・テレビ	家電リサイクル法
社用車	自動車リサイクル法



ごみ計量システムで、廃棄物削減を推進

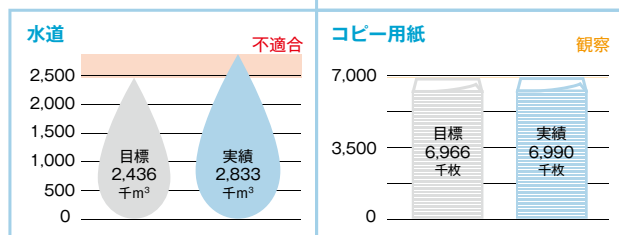
下のデータは、2007年度の目標管理対象となっている部署の電気・水道・紙の使用量をまとめたものです。電気、水道、紙のいずれも使用目標をやや上回りました。

全社のリサイクル率は76.0%です。廃棄物については、17品目の分別を基本にリサイクルを推進しています。

計量システムの導入も進めています。廃棄物が品目別に一覧でき、排出量の推移がわかるため、リサイクルの向上とともに廃棄物の削減にも効果があります。テナントの業種別に廃棄物の内容を分析したり、排出量を一覧にして各テナントにフィードバックすることで、さらなる削減のための意識づけを図っています。

2007年度目標管理 環境データ

電気、水道、コピー用紙は、目標設定部署のみが対象（新規オープン、増床、改築などの場合、15カ月は目標管理対象外のため除外）



種類ごとに重さを量り、品目と店名をバーコード入力します。



廃棄物は、17分別を基本に、種類別に別けリサイクルへ



お客さまにもリサイクル回収をお願いしています。フードコートでは割り箸を回収しています。

排水基準を順守するために

飲食店が集まるショッピングモールにとって、排水基準を順守することは、重要な課題です。そのため、2007年度は排水の除害施設の運用方法や規模を検証し、設備の導入や運用の基準を定めました。飲食店厨房では、毎日のグリストラップ清掃と、定期的な水質測定を実施しています。

環境活動にあたっては、テナント従業員の協力・参加が欠かせません。毎日の行動が、環境にどんな影響を与えるのかをわかりやすくまとめたハンドブックを配布し、環境意識の啓発に努めています。



グリストラップ清掃

17品目の分別と2007年度リサイクル率

1 生ごみ	76.2%
2 段ボール	100.0%
3 雑芥*	38.1%
4 廃プラスチック	98.7%
5 ビン	99.8%
6 缶	100.0%
7 発泡スチロール	100.0%
8 廃油	100.0%
9 紙類	100.0%
10 粗大ごみ	50.7%
11 その他不燃ごみ	68.9%
12 廃蛍光灯	66.4%
13 廃電池	84.8%
14 割り箸	98.6%
15 廃アルカリ、剥離剤	73.4%
16 汚泥	81.9%
17 廃エンジンオイル	100.0%

*雑芥：これ以上分別できないごみ

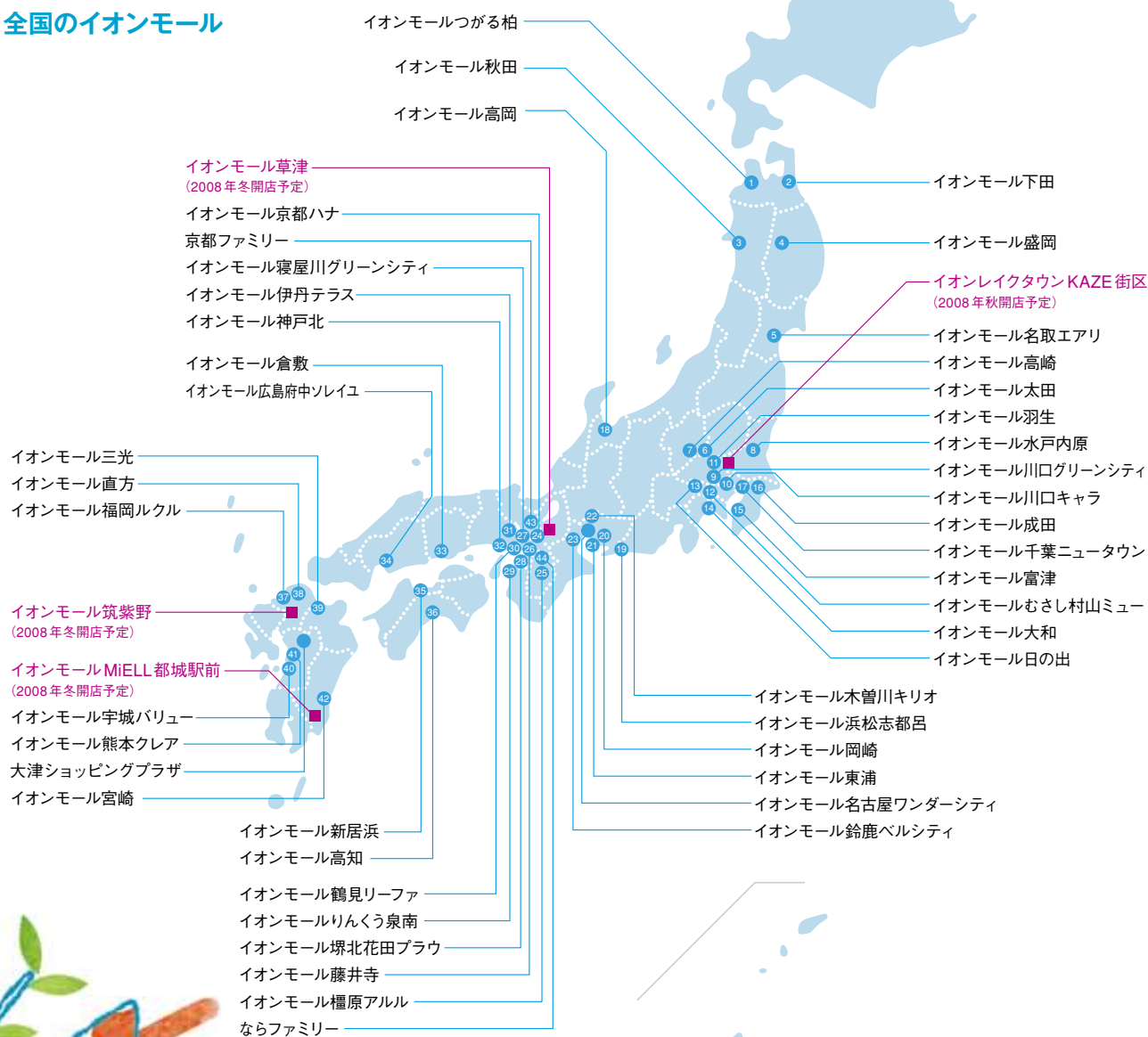
「SRシステム」で月ごとの環境データを把握し、 環境マネジメントに活かしています。

合併前にそれぞれで構築していたISO14001環境マネジメントシステムを2007年11月に統合しました。全モール・部署ごとの目標管理を効果的に進めるため、2005年3月から「S R (Social Responsibility) システム」を稼働。エネルギー、廃棄物、水、紙などの目標管理対象の項目別に達成状況が一目でわかる体制を構築し、PDCAのサイクル

で環境負荷の低減を進めています。2007年度は環境データに加え、募金活動や社会貢献活動も管理できるシステムとしました。

全国のモールは広さも構造も設備も異なりますが、好事例をオペレーション・マネージャー会議やイオンモールS R会議で報告し、ノウハウを水平展開しています。

全国のイオンモール



店名	オープン	CO ₂		電気		自家 発電	水蓄熱	自然 エネルギー その他設備	水		廃棄物 排出量 (kg)	リサイク ル率	生ごみ 処理機	廃棄物 計量 システム	植樹本数 (本)
		排出量 (t-CO ₂)	(2006年度比)	使用量 (千kWh)	(前年比)				使用量 (m ³)	(前年比)					
東北営業部															
① イオンモールつがる柏	1992年 11月	2,541	(86.1%)	4,098	(104.3%)	2006年 2月 撤去			20,740	(94.1%)	734,786	61.6%	2007年 7月撤去		72,388
② イオンモール下田	1995年 4月	2,912	(30.3%)	4,826	(96.2%)	2006年 3月 撤去		風力発電	41,502	(104.1%)	1,808,236	56.6%		※	50,675
③ イオンモール秋田	1993年 9月	3,627	(31.4%)	6,312	(103.1%)	2006年 3月 撤去			32,147	(85.9%)	1,610,189	94.3%	2007年 10月撤去		43,127
④ イオンモール盛岡	2003年 8月	5,305	(102.8%)	8,828	(101.9%)				43,522	(94.7%)	1,411,406	78.7%		●	26,528
⑤ イオンモール名取エアリ	2007年 2月	7,231	—	11,094	—		●		87,626	—	1,148,756	68.9%			20,000
北関東営業部															
⑥ イオンモール太田	2003年 12月	5,483	(103.0%)	9,783	(102.7%)				60,737	(99.8%)	1,813,019	64.5%		●	54,549
⑦ イオンモール高崎	2006年 10月	6,636	—	11,893	—		●		74,720	—	956,345	58.4%		●	50,000
⑧ イオンモール水戸内原	2005年 11月	7,550	(95.8%)	13,468	(95.5%)		●		128,208	(112.4%)	1,423,686	68.2%		●	49,988
⑨ イオンモール川口グリーンシティ	1984年 4月	2,418	(87.2%)	3,595	(108.3%)				39,905	(95.0%)	959,714	28.2%			252
⑩ イオンモール川口キャラ	2000年 11月	4,543	(89.2%)	7,931	(86.6%)		●		76,359	(124.5%)	1,222,462	99.9%			20,000
⑪ イオンモール羽生	2007年 11月	3,297	—	5,992	—		●	太陽光発電	41,047	—	552,290	93.5%		●	90,000
南関東営業部															
⑫ イオンモールむさし村山ミュー	2006年 11月	8,072	—	14,376	—		●	NAS電池	56,308	—	1,291,627	69.3%			45,000
⑬ イオンモール日の出	2007年 11月	1,700	—	3,052	—		●	太陽光発電	10,768	—	459,556	100.0%		●	58,000
⑭ イオンモール大和	2001年 12月	11,198	(93.0%)	8,645	(98.0%)				68,479	(91.7%)	1,965,908	95.2%	2003年 12月撤去	●	20,849
⑮ イオンモール富津	1993年 9月	2,969	(111.1%)	5,324	(122.3%)	2006年 3月 撤去			25,351	(108.7%)	1,030,403	99.8%	●		32,000
⑯ イオンモール成田	2000年 3月	13,456	(92.9%)	6,495	(85.3%)	2008年 2月 停止			79,443	(146.2%)	2,307,226	82.6%	●		46,000
⑰ イオンモール千葉ニュータウン	2006年 4月	6,993	—	10,095	—				30,523	—	2,589,096	97.9%		●	14,000
中部営業部															
⑱ イオンモール高岡	2002年 9月	6,072	(100.3%)	10,810	(99.8%)				86,457	(89.3%)	1,261,016	72.2%	2007年 3月撤去	●	44,726
⑲ イオンモール浜松志都呂	2004年 8月	7,283	(96.5%)	13,057	(96.4%)				63,239	(92.0%)	1,852,768	61.5%		●	38,116
⑳ イオンモール岡崎	2000年 9月	3,593	(98.6%)	4,547	(98.2%)				46,974	(99.4%)	948,238	41.2%	●		48,979
㉑ イオンモール東浦	2001年 7月	11,115	(99.2%)	7,651	(99.1%)				86,294	(98.3%)	2,262,284	93.6%	2006年 8月撤去	●	25,327
㉒ イオンモール木曽川キリオ	2004年 6月	7,836	(104.8%)	13,945	(103.7%)		●		109,484	(124.9%)	1,198,375	78.8%			12,000
㉓ イオンモール鈴鹿ベルシティ	1996年 11月	5,271	(102.1%)	6,836	(100.9%)				90,013	(94.5%)	1,877,998	77.1%	2006年 2月撤去		36,000
近畿営業部															
㉔ イオンモール京都ハナ	2004年 3月	5,125	(98.7%)	9,166	(98.2%)		●		65,486	(116.9%)	1,265,758	72.4%			11,000
㉕ イオンモール橿原アルル	2004年 4月	6,832	(98.5%)	12,153	(101.8%)		●		116,148	(96.6%)	971,468	69.6%			25,000
㉖ イオンモール藤井寺	1973年 12月	1,882	(103.1%)	3,370	(102.8%)				26,255	(95.2%)	736,180	46.9%			—
㉗ イオンモール寝屋川グリーンシティ	1978年 3月	2,397	(100.8%)	4,274	(99.8%)				20,293	(96.8%)	886,997	50.3%			3,267
㉘ イオンモール堺北花田ブラウ	2004年 10月	7,200	(101.1%)	12,807	(100.0%)		●		56,420	(73.4%)	999,468	30.6%			13,000
㉙ イオンモールりんくう泉南	2004年 11月	8,119	(99.4%)	13,195	(99.5%)		●		123,641	(106.8%)	1,443,290	96.7%		●	66,616
㉚ イオンモール鶴見リーファ	2006年 11月	6,071	—	10,871	—		●		63,673	—	1,090,238	46.9%			12,839
㉛ イオンモール伊丹テラス	2002年 10月	7,925	(102.6%)	14,194	(102.2%)		●		80,968	(103.4%)	2,322,822	60.4%			30,000
㉜ イオンモール神戸北	2006年 11月	14,931	—	12,252	—				96,976	—	932,565	100.0%		●	56,000
中国四国営業部															
㉝ イオンモール倉敷	1999年 9月	5,530	(34.7%)	9,933	(98.5%)	2006年 3月 撤去			78,596	(96.1%)	2,272,739	99.4%	●	●	70,000
㉞ イオンモール広島府中ソレイユ	2004年 3月	9,604	(96.3%)	17,216	(95.9%)		●		99,451	(100.7%)	1,754,443	100.0%			64,000
㉟ イオンモール新居浜	2001年 6月	4,844	(33.0%)	5,610	(97.7%)	2007年 3月 撤去			50,046	(85.0%)	1,372,993	71.5%	●	●	35,000
㊱ イオンモール高知	2000年 12月	6,182	(36.3%)	8,130	(102.1%)	2007年 3月 撤去			57,635	(105.2%)	1,880,067	62.9%	●	●	23,896
九州営業部															
㊲ イオンモール福岡ルクル	2004年 6月	10,069	(132.8%)	13,944	(102.3%)		●		106,792	(105.6%)	1,193,857	99.7%			30,000
㊳ イオンモール直方	2005年 4月	7,158	(98.5%)	10,702	(97.0%)				71,160	(112.3%)	1,029,439	100.0%		●	39,899
㊴ イオンモール三光	1996年 12月	10,345	(105.6%)	3,691	(98.8%)	●			20,960	(103.1%)	795,068	84.5%	●	●	36,708
㊵ イオンモール宇城バリュー	1997年 11月	3,427	(103.0%)	6,143	(102.5%)			蓄熱	28,080	(124.4%)	362,743	47.9%			50,000
㊶ イオンモール熊本クレア	2005年 10月	6,522	(106.2%)	11,596	(105.5%)		●	太陽光発電	141,987	(105.2%)	1,000,429	68.1%			50,000
㊷ イオンモール宮崎	2005年 5月	6,774	(100.0%)	10,165	(97.4%)				72,508	(98.1%)	1,769,560	91.5%		●	56,432
PM営業部															
㊸ 京都ファミリー	1982年 11月	2,702	(105.9%)	3,979	(104.0%)				37,945	(38.3%)	1,143,764	100.0%			—
㊹ ならファミリー	1972年 3月	9,805	(103.3%)	10,690	(95.8%)				169,002	(57.8%)	2,790,040	46.2			300

★ モール共用・後方部分が対象 ※ システム搭載車両による計測

お客さまや社会との 環境コミュニケーションに力を入れています。

お客さまにも環境配慮を呼びかけ

省カーペットやタイル、ベンチなどにリサイクルの再生資材を使用していることで、CO₂の排出をできる限りニュートラルにしていこうと考えています。

館内には分別ごみ箱を配置。駐車場ではアイドリングストップを呼びかけています。また小中学校の総合学習なども積極的に受け入れ、ごみ保管庫などのバックヤードも含めて見学することで、エコモールに向けた取り組みを伝えています。2008年度は、エコバッグの利用なども呼びかけ、お客さまとともに省エネやリユース・リサイクルを進めていきたいと考えています。

自転車利用でCO₂削減

■イオンモール日の出 鈴木 順子さん

健康と温暖化防止のために自転車で来ました。みんなが集まるモールで、楽しみながら、エコに配慮できるような活動を紹介したら、影響力が大きいのでは？



館内での環境コミュニケーション

太陽光発電状況を表示

太陽光発電パネルを設置したモールでは、館内に現在の発電状況と、削減したCO₂量が一目でわかるボードを設置しています。



CoCo ni Eco

イオンモール羽生ではモールの環境保全の取り組みをパネルで紹介した「CoCo ni Eco」コーナーを設置しています。



エコベンチ

館内に、モールでの環境取り組みと、家庭でできる環境活動を立体模型で示した間伐材のエコベンチを配置しています。



エコバッグ展示

イオンモール羽生では、オープン時に、各専門店オスメのエコバッグを館内に展示し、エコバッグのご利用を呼びかけました。



バスの乗車人数調査

最寄り駅とモールとを結ぶバス路線の新設・増便なども進めています。2007年度は21カ所のモールで、年間のバスの乗車人数を調査し、利用実態を把握。今後は、公共交通機関の利用なども促す取り組みに力を入れていきます。



2007年度乗車人数一覧

(単位：人)

イオンモールつがる柏	53,918	イオンモール岡崎	400,251
イオンモール盛岡	89,869	イオンモール鈴鹿ベルシティ	231,948
イオンモール太田	209,419	イオンモール京都ハナ	16,8170
イオンモール高崎	147,049	イオンモールりんくう泉南	362,198
イオンモール水戸内原	22,511	イオンモール神戸北	425,141
イオンモール羽生	141,179	イオンモール倉敷	223,202
イオンモール日の出	47,259	イオンモール新居浜	21,498
イオンモール富津	29,320	イオンモール直方	121,256
イオンモール成田	735,109	イオンモール三光	72,575
イオンモール高岡	214,700	イオンモール宮崎	430,567
イオンモール浜松志都呂	164,739		

*イオンモール京都ハナ8月度～、イオンモール羽生11月度～、イオンモール日の出12月度～



「エコプロダクツ 2007」に出展

2007年12月13日～15日、イオンは環境への取り組みを紹介する国内最大規模の展示会「エコプロダクツ 2007」に、「進化するエコストア～くらしにエコがひろがる～」をテーマに出展しました。イオンモールのコーナーではエコベンチを設置し、子どもたちをはじめ、多くの来場者の関心を集めました。



「エコドライブ読本」を配布

モールで働く全従業員に、入店時の環境教育を実施しています。2005年度からはエコドライブの効果をわかりやすくまとめた「エコドライブ読本」を配布しています。2008年度は、お客さまにもエコドライブを呼びかけていきます。



全国のモールでの環境コミュニケーション

5つのECOチャレンジ宣言！

■ イオンモール伊丹テラス

2007年10月の5周年にあたって、お客さまとともにCO₂削減を進めようと「ECOの森～5つのECOチャレンジ宣言！」の環境イベントを実施しました。お客さまの環境宣言が記された葉が繁ったECOの樹を製作したほか、ECO紙芝居の実演、高さ3m、幅3.5mの巨大エコバッグに、子どもたちが鳥やトンボを描いた「エコバッグアート」、オリジナルエコバッグづくりなどに取り組んでもらい、親子で環境を考える機会となりました。



1,016名の社会科見学を受け入れ

■ イオンモール鈴鹿ベルシティ

市内小学校をはじめ、県内養護学校の子どもたちの社会見学や商業体験を受け入れています。小学生を対象にした、ごみ処理やエコ活動、防犯、警備対策などを中心とした社会科見学会は、ショッピングモールでのさまざまな仕組みに直接触れられる機会として年々参加者が増え、2007年度は、22回・合計1,016名が来館しました。



森を育てる自動販売機設置と「ソレイユ秋祭り」

■ イオンモール広島府中ソレイユ

2007年8月に、敷地内に、売上の一部を(社)広島県みどり推進機構の育樹基金に寄付する「森を育てる自動販売機」を設置しました。木をかたどった特徴的なデザインで、2008年5月現在14万5,809円を寄付しました。

9月29日～30日に実施した「ソレイユ秋祭り」では、県の漁協・農協の「地産地消とれたて朝市」を中心に、さまざまなイベントを実施。期間中はバイオディーゼル燃料のバスが、駅とモールを結びました。



家族・地域のコミュニケーションスペースを創りたい。 ゆったり感をベースに、



2007年11月2日、埼玉県羽生市に「イオンモール羽生」が、
11月23日には東京都日の出町に「イオンモール日の出」がオープンしました。
それぞれのモールの一歩進化したCSRの取り組みを紹介します。

イオンモール 羽生

AEON MALL HANYU



■イオンモール羽生 ゼネラルマネージャー
片岡 健一

ユニバーサルデザインの強化

イオンモール羽生は、埼玉県北部の羽生川崎産業団地内に、市の誘致を受けて誕生しました。敷地面積約23万㎡、駐車台数5,000台、200店舗の専門店が入るイオン最大規模のモールです。大きさもさることながら、最大の特徴は、その“ゆったり感”です。ショッピ

ングモールの役割のひとつは、非日常的な空間を提供し、精神的なやすらぎを感じていただくことではないでしょうか。毎日忙しく生活しているビジネスマンや、子育てに追われる主婦の方がイオンモール羽生に来て気分転換ができ、家族の会話もはずんでしあわせになれる、そんなきっかけになる場所であってほしいのです。

ご家族で楽しんでいただくため、通路は両親の間にお子さんを挟んだご家族が二組すれ違える広さを確保しています。見た目にもすっきりさせ、子どもたちが安心して歩けるよう配慮しています。

開発計画段階から九州大学大学院芸術工学研究院の森田昌嗣教授にアドバイスいただき、ユニバーサルデザインに取り組んできました。お客さまや地域のみなさまのご意見もうかがいながら、案内表示やトイレ設備、駐車場の見直しを行いました。これまでのSCの

場合、車をどこに停めたかわからなくなったというお問い合わせが多かったのですが、表示の工夫によってその数がぐっと減るなど、どなたにもわかりやすく利用しやすい施設になったと自負しています。

大切なお客さまとのコミュニケーション

こうしたユニバーサルデザインの取り組みや、太陽光発電や氷蓄熱といった環境への取り組みを、「CoCo ni Eco」というコーナーでお客さまに紹介しているのもこのモールの特色です(p18参照)。お客さまと積極的にコミュニケーションを図り、対話を深め、サービスの質の向上につなげていきたいと考えています。

オープンして間もなく、お母さまと一緒にご来店されたお子さまが、1枚の絵を置いていかれました。その絵には、虹がかかった空と緑の樹木を背景にショッピングモールが描かれ、「イオンモール羽生だいすき」と添え書きされていました。お客さまから寄せられる一つひとつの声に耳を傾け、「どこよりも美しく、どこよりも楽しく、どこよりも親切なショッピングモール」をめざしているだけに、大変うれしいお手紙でした。

これからも従業員教育に力を入れ、どこにも負けない最上級の「おもてなし」でお客さまをお迎えしていきます。



■イオンモール羽生 オペレーションマネージャー

佐々木 清博

テナント合同の求人活動で90%を地元採用

イオンモール羽生ではテナント従業員2,200人、ジャスコ従業員650人、あわせて2,850人強の方が働いています。首都圏に近いだけに、人材集めには、テナントも含めて苦労しているのが実情です。

そこで、オープン前から採用には特に力を入れ、就職情報誌とタイアップするなど合同説明会を実施しました。現在、約90%が地元採用となっています。大切な人材の育成が重要な課題ですので、入店時の環境教育をはじめ、出店者の集まりである協議会主催のロール・プレイング大会など、スキルアップのいろいろな機会を設けています。

また、新しいモールですので最新の設備が導入されていますが、省エネを徹底するためのチューニングにも力を入れていかなければなりません。テナントスタッフにも省エネの意識を持っていただけるよう、コミュニケーションを深めていきたいですね。

活気が伝わってくる場所

「希望の里」デイサービス利用のみなさん

社会福祉法人翼会が運営する「希望の里」では、身のまわりの介護を必要とする重度の身体障害者の介護や機能訓練のほか、ショートステイとデイサービスを実施しています。今日は、車いすが必要な7名の方と一緒に、ショッピングで一日を過ごそうとイオンモール羽生にやってきました。

外出先の選定にあたっては、トイレが利用できるかどうかが重要なポイント。ここは幸い、各階に入りやすいトイレがあるし、通路の段差



もない点が助かっています。楽しいお店が並んでいて活気が伝わってくるので、介助者にとっても、ホッとできる場所ですね。



①



②



③



④

- ①お子さま専用のキッズトイレを導入。身長に応じたサイズのトイレが並んでいる。
- ②足利市から来たという清水由香里さん(左)と星野有里さん(右)。「いつもは太田にあるイオンモールに行くのですが、新しいところにも興味があって電車で来ました。ここのフードコートは広々として気持ちいいです。どのイオンモールも、清掃が行き届いていてトイレも使いやすく安心できます」とのこと。
- ③館内のあちこちにエレベーターやトイレの位置を示すサインがある。
- ④歩き疲れたときのためのベンチも豊富。ご高齢の方やハンディキャップをお持ちの方に優先的にご利用いただけるシートも各フロアに配置されている。

モール内で成人式を開催。 地域のみなさまに愛されるモールづくりをめざして



イオンモール日の出

AEON MALL HINODE



■イオンモール日の出 ゼネラルマネージャー
中沢 正春

ご家族の生活の中心のモールとして

イオンモール日の出は、東京・北西部の日の出町に2007年11月にオープンしました。ここには三代代で一緒に車に乗って来店されるご家族が多いのです。そんな良き家族関係に恵まれた地域の、生活の中心のモールであるために、私たちはできるかぎり地域の方と密接な関係を築いていきたいと思っています。

そのために、地域の方とともにいろいろなイベントを開催しています。オープン前に地域のお客さま約2,300人と2万本の植樹

をしたときには、地域の保育園のお子さんが全員で参加してくれました。オープンしてからは、サティとテナントに協力いただき、地域の中学生を対象に「職場体験」を実施しました。70名の生徒さんが参加し、学校では得られないものを学べたとたいへん好評でした。

正月2日にはこの地域で行われている民俗芸能「さくらぎ囃子保存会」のみなさんが館内をお囃子を奏でながら練り歩き、お客さまも大喜びでした。そしてなにより最大のイベントが、ここで行われた「日の出町成人式」です。これは、行政主催ではなく地区単位の実行委員会で行われたもので、新成人180人のうち155名が参加する盛大なものでした。モールでは成人証明書を発行したり、モール内の呉服屋さんが着付け指導を行うなど、地域の方との交流が深まりました。

サクラの木を保存

西多摩地域は、豊かな自然に恵まれ、サクラやフジの名所としても知られています。このモールを建設するとき、古く風格のあるサ





クラの木が敷地の中にありました。地域のシンボルでもあるこのサクラの木を残し、いま、モールの「サクラ入口」でお客さまを迎えています。

イオンモール日の出がめざすのは、「人と自然にやさしいモール」です。モール1階にはサービスセンターがあり、利用者は「モールの

活気が伝わってくる」と楽しみにされていると聞いています。環境面では、太陽光発電や屋上緑化を進めているほか、ごみのリサイクル先を開拓して、ゼロエミッションを達成しました。

近隣地域のみなさまに愛されるモールづくりのために、一つひとつのことを積み上げていきたいと考えています。



日の出町の「広報 日の出」にもイオンモール誕生の記事が大きく取り上げられました。

防災意識を育て、お客さまの安全・安心をサポート



■営業本部 SCサポート部 防災担当部長
久津和 力生

イオンモールでは、お客さまに安心してショッピングを楽しんでいただくために、防災対策に力を入れています。私は2007年秋に防災担当となり、前職の消防署での経験を生かして、各モールの防災の指導にあたっています。昨年度から地域との防災協定の締結に力を

入れています。イオンモール日の出でも地元日の出町と（株）マイカルと3者による防災協定を締結し、地域と協力した防災体制を整えています。オープン前には、地元消防署や地域の消防団、モールの従業員が協力して、万一の火災を想定しての、誘導と初期消火、怪我人の搬送の大規模な訓練を行いました。

こうした訓練のほかに、防火シャッターの降下部分に商品などの障害物が置かれていないか、階段、通路に商品の箱などを置いていないか、日常的にチェックすることが重要で、そうした防災意識をテナントの方が持てるように指導しているところです。

また、イオンモール日の出のすべての専門店の店長が防火管理者の資格を取得するよう、講習会への参加を推進しており、お客さまの安全・安心のために最善を尽くしています。



ゆったりくつろげる「パウダールーム」を新設。



駐車位置が確認しやすい案内表示。



- ①大切に守られていたソメイヨシノをモールの北側に残し、残土は処分せず、植栽地のマウンドの表土として再覆土しました。
- ②モールで働く従業員の利便性向上のために従業員用コンビニを導入。
- ③2008年1月2日、日の出町の桜木地区に昭和61年に結成された「さくらさく雛子保存会」の16名が館内を練り歩き、お雛子の周りは、正月を祝うお客さままで賑わいました。
- ④オープン前の地元消防署との合同による火災訓練では、消防ヘリコプターや消防ロボットも参加しました。

イオンモール宇城バリューの挑戦

地域と協働して、地域の魅力を高めていくために

イオンモール宇城バリューは、熊本県のほぼ中央、2005年1月に5つの町が合併して誕生した宇城市にある。テナント数約100店舗、駐車台数3,300台と、宇城市でもひときわ目につく大型ショッピングモールだ。行政やNPOと連携し、地域の魅力づくりに力を入れている宇城バリューを訪ねた。

生産者が丹精をこめた農産物の地産地消を推進

「とびきり甘い塩トマト、太陽の恵みをあびた不知火町の早生みかんはいかがですかー」。拡声器から、にぎやかな声が聞こえてくる。地元産の有機栽培の農産物や加工品を農家から直接仕入れ販売している「ふぁーまーず・まーけっと宇城」である。地域密着型の専門店を強化したいという宇城バリューと、地産地消の新しい店をつくりたいという津末啓二さんの構想が合致し、2007年9月にオープンしたものだ。

「当初は地域の農家や加工業者の協力がなかなか得られず苦労しました。何度も足を運び、生産者の思いを消費者に直接届けたいと説得して、少しずつネットワークを広げていったのです」

今は、採れたての新鮮な野菜や果物、こだわりの醤油や豆腐、農産物の加工品、惣菜や弁当、地元作家の手工芸品がズラリと並ぶ。球磨酪農のヨーグルトなどのヒット商品も出てきた。

「食の安全・安心に消費者が敏感になったことも追い風になっています。近い将来、鮮魚もラインナップに加えて、朝市を開きたいですね」と、津末さんはこれからの夢を語っている。

こうした地産地消を推進する取り組みに、

宇城バリューでは数年前から力を入れてきた。毎年秋には、豊かな自然に恵まれた宇城市の特産品をアピールする一大イベント「宇城市物産展～食とモノの祭典～」に協賛しているほか、春に行われる「宇城フラワーフェスタ」では敷地を提供し、市民とともにボランティアスタッフに加わり大会運営をサポートしている。また市のフラワー協議会と協働で、市民とともに駐車場の花壇に花を植える活動も展開。2007年6月には、JA熊本うきとタイアップし、田植えから稲刈りまでを体験できる「農業体験福袋」を販売し、100名の親子が農作業に汗を流した。

地域ブランドの発信基地として

地域の情報発信基地としての役割も大きい。2007年7月には、「宇城市行政サービスセンター」がオープンした。また宇城市雇用促進協議会とも連携し、地域の雇用拡大に取り組んでいる。同協議会の中尾雅幸さんは言う。

「なんといってもイオンモールは、宇城市でもっとも雇用吸収力のある企業のひとつです。ぜひ大勢の地元の方に働いてほしいですね。私たちは地元商工会とともに、地域の農産物でオリジナル商品を開発し、会社を興して雇用を創出することにも力を入れています。宇城バリューには、そのためのアンテナショップの役割も期待しています」

2008年1月に宇城市産のショウガを使ったアロマオイルで足湯、マッサージ体験のイベントを実施したところ、大勢のお客さまが集まり長蛇の列だったという。このように開発した商品を「ふぁーまーず・まーけっと宇城」で発売して地域発のブランドとしていきたいという構想も膨らむ。



■宇城市雇用促進協議会
事業推進員

中尾 雅幸氏 (左)

■ふぁーまーず・まーけっと宇城

津末 啓二氏 (右)



■宇城市小川町商工会会長
橋本 徹氏

地域から愛されるモールに

宇城市小川町商工会会長・橋本徹さんは「いまや大型店と商店街の店が競争するのではなく、それぞれが独自のサービスを考え出しながら協力関係を築き、相乗効果で地域全体の底上げを図っていかなくてはなりません。

ん。宇城バリューは周辺地域からの集客力もあり、この地域の発展に必要なショッピングモールです。お互いに知恵を絞って、宇城ならではの魅力を増していきたい」と語る。

ゼネラルマネージャーの山義信も思いは同じだ。

「地域間競争の激化するなか、私たちが生き残る道は、いかに地域に愛されるモールになるか。そのためには、ここにしかないものをどれだけ発掘していけるかが勝負だと思っています。幸い、地域の核となる人たちが集まり、宇城バリューを拠点にネットワークがさらに広がっていきこうとしています。ここで働く従業員もお客さまも、みなが『宇城っていいな』と実感できるようなモールにしていきたいですね。」



フットサル教室を開校

■フットアス 巻 昇治

(サッカー日本代表候補
J1千葉 巻誠一郎選手の父)

息子の巻誠一郎は、「大好きなサッカーで地域に恩返しをしたい」と、出身地の宇城市でフットサル教室を開くことになりました。宇城バリュー内にフットサルコートを設置することができ、いよいよ2008年夏にスタートします。地元からサッカーの日本代表になるような選手が育つよう、子どもたちの夢を後押ししていきたいですね。

誇りの持てる郷土づくりに力を注ぎたい。

■宇城市市長 阿曾田 清氏

宇城市では、教育、環境、健康、雇用、観光の5つの「K」を大切にしたまちづくりを進めています。具体的には、環境ではゼロエミッション政策や里山づくり、雇用面では農産物のブランド化などを通じた新たな雇用機会の創出、健康面ではMRI（磁気共鳴画像装置）の無料診断化による市民の健康づくりです。

なかでも子どもたちの明るい未来のために、教育に力を入れると同時に、誇りの持てる郷土をつくっていくことが重要なテーマです。2009年4月に全国で2校目となるJFAアカデミーが開校することも決定しました。サッカーの巻誠一郎選手のフットサル教室も宇城バリューに開設されます。「熊本



に宇城あり」と、全国に知らしめることができ、子どもたちの教育にも大きな力となるでしょう。

イオンモール宇城バリューには、雇用の創出から教育まで、未来の宇城市のために力を貸していただきたいと思います。



モール内の「宇城市行政サービスセンター サテライトプラザ」。住民票や納税証明等が土日でも受け取れるほか、市の広報ツールが揃っている。

「JA熊本うき」とタイアップした「農業体験福袋」では、親子揃っての田植えを体験。子どもたちの泥まみれの笑顔が印象的でした。(写真下)



■イオンモール宇城バリュー
ゼネラルマネージャー
山 義信





あたたかい拍手がうれしかった 満員のお客さまの前での新緑コンサート

2007年5月3日 ■イオンモール水戸内原



楽しく元気な中学生による吹奏楽の演奏に、買い物にいらしたお客さまに爽やかな心地よい安らぎの時間を提供できました。用意した80席のイスは満席となり、レベルの高い演奏に盛大な拍手が送られました。演奏した中学生たちの照れながらも誇らしげな笑顔が印象的でした。



ぼくの描いた絵で ラッピングされた電車が走ったよ きょうは一日駅長なんだ

2008年3月20日
■イオンモール名取エアリ



仙台駅と仙台空港を結ぶ仙台空港アクセス鉄道の1周年を記念した「ト레인お絵かきコンクール」に協賛しました。3月20日には、「仙台空港鉄道賞」を受賞した2人の子どもが一日駅長となり、自分の作品がラッピングされたお絵かきト레인号の出発の合図をしたり、列車到着時にお客さまをお出迎え。イオンモールエアリ賞を受賞した50組150名の親子も専用列車に乗車し、楽しい時間を過ごしました。ラッピング電車は、約1か月半運行されました。



大人にも負けないぞ！ 子ども太鼓台で「かきくらべ」

2007年5月3日 ■イオンモール新居浜



秋の太鼓台まつりの子ども版。市内13台の子ども太鼓台がイオンモール新居浜に集合し、太鼓台を下から持ち上げて勇壮さ・美しさを競う、かきくらべが行われました。入場時に各太鼓台代表の子どもが、御花に対する御礼口上を大人に負けず堂々と述べ、大いに盛り上がりしました。

お祭りや工作、スポーツ、職業体験… 交流と出会いの場となるモールで、



サンタクロースになりきって モールをパレード！ 楽しいクリスマスだったよ

2007年12月1日～2日 ■イオンモール京都ハナ



クリスマスを前に、サンタクロースに扮した子どもたちが1階フロアをパレードし、クリスマスの雰囲気を演出しました。テナントにプレゼントを用意いただき、通過点でプレゼント。パレード終了後は吹抜けモールに展示していた大型ツリーの前で、大きなサンタさんと一緒に撮影会を実施。合計400人以上の親子が参加し、館内はクリスマスの楽しい雰囲気でいっぱいになりました。普段は買い物のためにやって来るショッピングモール内をサンタの格好で練り歩くことで、子どもたちにとってよい思い出となりました。



おじいちゃんに教えてもらった ベーゴマで勝負だ！

毎月実施 ■川口グリーンシティ



鋳物の街として栄えた川口では、機械部品などの生産の合間に鋳物工場でベーゴマが生産されていました。こんなベーゴマ文化を子どもたちにも伝えたいと、ボランティア団体「川口ベーゴマクラブ」主催で、毎月ベーゴマ大会が開かれ、小学生からお年寄りまで真剣勝負が繰り広げられます。

KOCHI
イオンモール
高知
2007
8.22

「キッズワーカーズスクール」で ショッピングモールの 仕事に挑戦!

2007年8月22日 ■イオンモール高知



子どもたちが楽しみながら、仕事や社会の仕組みを働くことを通して学ぶ、小学生対象の体験型イベントを開催。入社式や社員研修を経て、総合サービスカウンター、警備、トイザらスの仕事など、修了式までの半日を本物の会社のようなスケジュールで体験しました。館内放送や巡回、無線での連絡、商品の陳列など、緊張しながらも積極的に取り組んでいました。今回は小学校4～6年生の14人が参加。「仕事は楽しいけど大変なこともあるとわかった」などの感想が寄せられました。

イオンモールは全国のモールを舞台に、
地域の人たちとともに次代を担う子どもたちの心を育む
豊かな体験の場をつくりだしています。

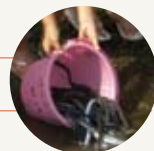
いろいろな経験を紡いでいます。

KUMAMOTO
イオンモール
熊本クレア
2007
9.23

きれいな川で大きく育て!

うなぎの稚魚の放流

2007年9月23日 ■イオンモール熊本クレア



嘉島町の矢形川河川敷で、子どもたちとうなぎの稚魚を放流しました。自然と触れ合い、命と心を育む環境づくりへの社会貢献として行っているもので、今回は地元嘉島町の嘉島保育園の園児15人が参加。父母と一緒に、うなぎの稚魚60kg(およそ1,000匹)を放流しました。

FUKUOKA
イオンモール
福岡ルクル
2008
1.19

気づかなかったことがいっぱい アイマスクや車いす体験

2008年1月19日 ■イオンモール福岡ルクル



地元粕屋町の社会福祉協議会主催の障害体験教室を開催。地元の小中学生40人が、県立福岡魁誠高校のボランティアの高校生たちの協力を得て、館内で実際に車いすに乗ってみたい、アイマスクをつけて視覚障害を疑似体験したり、多種多様な“気づき”を習得しました。

MORIOKA
イオンモール
盛岡
2007
6.21

郷土の特産物を

買い物客に一生懸命PRしたよ

2007年6月21日 ■イオンモール盛岡



岩手県山田町大浦小学校の6年生12人が、修学旅行の一環としてイオンモール盛岡を訪問。総合学習で学んだことを通して、郷土のPRをしました。小学生たちは、山田町大浦の特産物である塩蔵若布、干しいたけや、使用済み食用油で作った石鯰を買い物客に紹介し、伝統芸能「大浦さんさ」を披露。また、イオンモール盛岡近隣の土淵小学校と踊りを通じた交流も行われ、大盛況でした。

開催後も反響は大きく、参加した小学生から喜びの手紙も届きました。

FUTTSU
イオンモール
富津
2007
7.16・21

「イオンモール富津杯」をめざして

思い切りシュート!

2007年7月16日・21日 ■イオンモール富津



13回目を数えるイオンモール富津杯・ジュニアサッカー選手権大会。富津市臨海陸上競技場を会場に、君津地区4市をはじめ南房総市など県南4市の合計8市から、小学5年生以下の24チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。表彰式はイオンモール富津のセントラルコートで開催され、多数のお客さまからの拍手を受けました。

一人ひとりが社会に目を向けています。 お客さまとのコミュニケーションを深めながら

イオンの理念の徹底をめざして

イオンでは、「すべてはお客さまのために」を基本に、お客さまの生活文化の向上を目指し、現状に満足することなく、常に一步先んじていくことが私たちの存在価値であり、イオンの「信頼のブランド」を築くことにつながると、2001年に「イオン宣言」を制定しました。そして、2003年4月に「イオン行動規範」を制定し、私たちのとるべき行動の指針としました。

毎年1回「イオン行動規範セミナー」を実施し、サービスカウンターや、警備や清掃を担当するパートナー企業、ならびに、ご出店いただいているイオン各社の従業員が参加し、イオンの理念の徹底を図っています。2007年度は1,516名が参加しました。

イオンモールSR賞で、社会貢献に取り組む姿勢を後押し

2005年度から「イオンモールSR賞」を設け、環境保全や社会貢献活動に積極的に取り組んだモール・部署を表彰しています。従業員の自主的な参加や工夫が生きる風土を醸成したいと考えています。

2007年度SR賞受賞一覧

SR賞	受賞モール／部署	実績	全社
行動規範推進賞	イオンモール盛岡	194名	1,516名
	イオンモール成田	243万7,173円	
募金活動賞	イオンモール高知	188万1,711円	4,328万7,803円
	イオンモール鶴見リーファ	124万9,657円	
献血活動推進賞	イオンモール倉敷	5,026名	3万8,868名
クリーン&グリーン賞	イオンモール成田	4,288名	4万7,030名
黄色いレシートキャンペーン賞 (投函されたレシート総額)	イオンモール太田	4,898万9,154円	2億3,366万8,605円
	イオンモール京都ハナ	2,173万4,449円	
	イオンモール新居浜	527万9,366円	
ハートフルマーケット賞	イオンモール大和	148万9,000円	536万638円
環境家計簿団体賞	イオンモールつがる柏	77名	407名
SR会議特別賞	保険部会(環境家計簿)	67名	407名



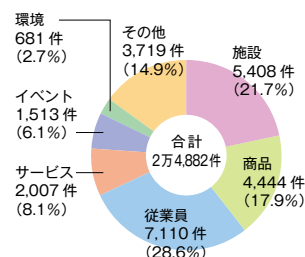
イオン行動規範 宣言

- 一、イオンビープルは、常に多くの人々から支えられていることに感謝し、ひとときも謙虚な気持ちを忘れません。
- 一、イオンビープルは、人々との信頼をなによりも重んじ、いかなる時も正直で誠実な行動を貫きます。
- 一、イオンビープルは、お客さまの期待を感動に高めるため、常に自らを磨きます。
- 一、イオンビープルは、イオンの理想を実現するため、ためらうことなく変革への挑戦を続けます。
- 一、イオンビープルは、地域の発展を願い、よき企業市民として社会への奉仕につとめます。

つねにお客さまの声を指針に

お客さまの視点を徹底するために、イオンモールでは全モールに「お客さまの声ボックス」を設置しています。ゼネラルマネージャーはもちろんのこと、社長をはじめ担当役員自らがすべてに目を通し、お客さまの声の背後にあるニーズを受け止め、お客さまの声はモールを革新していく原動力と認識しています。

回答はモール内に掲示しており、お客さまの声を受けて改善した事例は、写真とともにわかりやすく紹介しています。





■(財)イオン環境財団
イオン1%クラブ事務局長
神尾 由恵 (かんお よしえ)

お客さまの支援を得ながら、 社会の一員としての活動を深化させてきました

■ 19年間の広がり

イオン1%クラブが設立されてから、今年で19年になります。当初は約1億円だった活動資金も、昨年は約17億円と年々増え、それとともに活動内容も広がってきました。グループ企業各社が税引前利益の1%を拠出していますが、昨年度のイオンモールの拠出額はグループ2位とたいへん貢献してもらっています。

また、お客さまにお願いする募金活動も広がり、国内外の自然災害などへの支援募金の参加人数もその額も大きくなってきています。

私たちの募金活動の最大の特長は、すべての募金活動において、お客さまからの募金額に、イオン1%クラブから同額をプラスして届けることです。学校建設の場合には、さらに日本ユニセフ協会からも同額がプラスされ、お客さまの善意が何倍にもなって、大きな支援の力になります。

■ イオン1%クラブの活動の3つの柱

イオン1%クラブの活動は、3つの柱があります。「環境保全」「国際的な文化・人材交流・

人材育成」「地域の文化・社会の復興」です。

具体的には、子どもたちに環境について興味を持ってもらうための「イオン チアーズクラブ」や「ドイツに学ぶエコライフ」ツアーをはじめ、カンボジアやネパール、ラオスなどでの学校建設にも取り組んできました。2007年はカンボジアに「シアヌーク イオン博物館」をオープンしました。日本の調査団によって発掘された石仏約274体を、現地で保護研究し、多くの人に見てもらうための施設です。2008年度は、10年前から続けてきた地雷撤去活動に力を入れます。募金活動のほかにも、「子ども地雷サミット」などを行う準備も進めています。

■ 800万本の植樹実績

一方、イオン環境財団の大きな活動のひとつが自然保護活動を行っているNPOの支援と、知床やマレーシア、中国の万里の長城など国内外の植樹活動です。お客さまや社員、地元の方たちみんなが一緒になって、1本1本植えてきました。その総計は、2008年2月でグループ全体で約800万本になりました。

イオン1%クラブもイオン環境財団も、20年近く活動を続けてきた今、こうした私たちの活動が、お客さまにずいぶん認知されてきたと感じます。募金のお願いや、その後の報告、植樹や学校建設ツアーへの参加の呼びかけなど、小売業であるイオンやディベロッパーであるイオンモールだからこそできる、情報発信の力も大きいと感じます。

社会貢献活動は、イオンがまだ岡田屋だった昭和30年代に、すでに奨学金制度などの活動としてスタートしたものが、地道ながら今日まで活動を続けてきたことが、グループの成長につながり、お客さまに支えられ、従業員の活動の源になっているのです。



2006年から3カ年計画で、ラオスに100校の建設をめざし「ラオス学校建設支援募金」を実施。2007年までに1億32万3,147円の善意が寄せられ、イオン1%クラブからの拠出金を合わせた2億632万3,147円で62校の建設を支援。



イオン環境財団では、2008年11月11日、「全国都市緑化ぐんまフェア」の一環として、太田市北部運動公園のピクニックの丘約0.5haに700本の苗木を植樹。雨にもかかわらず157名の参加がありました。



毎月11日のイオンデーには、モールの周辺を専門店の従業員とともに清掃します。写真はイオンモール浜松志都呂。拡大クリーンデーとして、浜名湖クリーン作戦に参加しました。

幸せの黄色いレシート キャンペーン

毎月11日のイオンデーに、地域NPOなど応援したい団体のボックスにお客さまに黄色いレシートを入れていただき、集計額の1%相当の物品を団体に贈呈。

2007年度の主な募金活動結果

単位:円

	4月度	6月度	7月度	8月度	12月度	12月度
	北陸能登半島沖地震	ラオス学校建設支援募金	新潟県中越沖地震	24時間テレビ「愛は地球を救う」	だっこサンタクリスマスチャリティ(日本ユニセフ協会)	ラッピング募金「パンダ絶滅を阻止しよう!」
イオン・イオン各社	9,010,667	55,265,889	39,812,440	276,960,401		11,590,582
うちイオンモール	979,840	3,834,840	2,634,075	16,753,456	18,879,692	204,898
イオン1%クラブ、イオン環境財団	11,000,000	56,000,000	40,187,560			13,409,418
総合計	20,010,667	111,265,889	80,000,000	276,960,401	18,879,692	25,000,000

新生イオンモールに魂を入れる年。 透明性の高い人事制度で風通しのよい風土をつくります。



■管理本部 人事総務部 部長
片江 啓訓 (かたえ ひろくに)

人事の諸制度・給与基準を一本化

2007年度の人事面での最も大きなテーマは合併でした。社風も制度も大きく異なる2つの会社がひとつになるのですから、乗り越えなければならない壁はとても大きい。自らが「新生イオンモール」の一員であることを、かけ声だけでなく、全員が心から納得できなければなりません。

従業員の処遇等に関しては最重要事項と位置づけ、2007年4月に発足した合併準備委員会を中心に調整を進め、出張関係や転勤に伴う住宅制度など日常業務に関するものは合併時に一本化しました。給与体系など

従業員データ (2008年2月20日現在)

	2005	2006	2007
従業員数 (うち臨時雇用)	489名 (222名)	584名 (296名)	978名 (360名)
障がい者雇用数 (雇用率)	10名 (2.6%)	10名 (2.1%)	13名 (1.5%)
育児休職取得者数	3名	4名	3名
女性管理職数	3名	5名	17名

※臨時雇用者(嘱託社員・フレックス社員)数は、年間の平均人数
※従業員数は単体。社外からの出向を含み、社外への出向を除く

に関しては、両社の資格や給料などのキャリアモデルと照合し、合併前の標準年収を下回ることのないよう、労働組合とも交渉を重ね、2008年春から統一基準での運用がスタートしたところです。

人事交流を推進し、ノウハウを交流

ダブルスタンダードが解消された今年度は、新生イオンモールとしての形に「魂を入れる」大切な年になります。真に一本化していくためには、仕事の上でお互いのノウハウを交換し、優れている面を吸収しあうことが重要です。そこで人事交流を推進しようと、2008年春に大規模な人事異動を実施しました。

合併によるシナジー効果はこれから十分に期待できます。ボリュームゾーンがマネージャークラスのベテランと若手とに2分されていましたが、合併により中堅層が厚く、バランスがとれたものになりました。これにより海外展開に向けた陣容も大きく強化できたことが大きな成果だと考えています。すでに新卒採用面で、「合併効果」が現れており、海外でのビジネスを志向する学生がイオンモールに関心を持つようになりました。

新卒で採用した人材のキャリアアップに関しては、OJTを基本に、各人にインストラクターがつき、営業部門、オペレーション部門それぞれのノウハウを指導する体制を取っています。目標設定や成果の評価とそのフィードバックなどの透明性を高め、希望するキャリアアップにそってステップアップしていけるよう教育制度も整備していきます。

イオンモール労働組合から

2007年8月に新生イオンモール労働組合の結成式を行いました。現在組合員は660名(2008年5月20日現在)、勤務時間が一定以上のフレックス社員も数多く加入している点が大きな特長です。2007年度は組合としての方針やビジョンの策定と、前年度から引き続き、ワークライフバランスの改善と働きやすい職場環境づくりに取り組んできました。今後も、第一線で働く仲間の声を集め、働きたい企業に向けた提案を続けていきます。



働きたい企業・働きたいモール・ナンバー1

新生イオンモールが掲げた経営ビジョンのひとつが、2017年に「働きたい企業・働きたいモール・ナンバー1」になるというもの。国籍・男女・年齢を問わず、持てる力を発揮できるような労働環境の拡充は、重要な課題です。

イオンモールでは、育児と仕事・生活の両立をめざすワークライフバランスの実現に向けて積極的に取り組んでおり、本社スタッフ部門には女性管理職も誕生しています。しかし、モールのマネージャークラスの人材がまだ育っていないことが課題であり、これから徐々に育成していきたいと考えています。

高齢化社会への対応としては、介護の問題もなおざりにすることのできない課題です。両親の面倒を見る必要が生じた場合には、男女を問わず一定期間転勤をしなくてもよいような配慮などをすでに制度化していますが、さらに拡充していく必要があります。

障害者雇用に関しては、合併による人員増によって、法定の障害者雇用率(1.8%)に達していません。本社だけでなく、全国のモールでもハローワークと連携しながら、1SCに1人の障害者の雇用を実現していきたいと考えています。

フレックス社員*については、すでに2005

年度に職務の習熟度と昇給をリンクさせた「フレックス社員制度」をスタートさせ、キャリアに応じてステップアップの道を開くなど働きがいを高める環境づくりを進めています。また全国のモールで、テナント従業員の接客技術の向上など教育面の強化や、従業員同士の交流にも力を入れています。このような施策を通じて、働きやすく、働きがいのあるショッピングモールをめざしています。

従業員の多様性を生かし、仕事に打ち込める環境を整備し、社会や業界他社からもイオンモールは優れていると認められ、働くことに誇りを持てる会社としていきたいと考えています。



子ども参観日を実施しています。社長室を見学したり、お父さんの机で家族揃って「はい、チーズ」



育児と仕事の両立支援制度などについてわかりやすくまとめた「みんなで子育てすくすくガイド」を社内イントラネットに掲示。その結果、フレックス社員の育児休職取得者数が前年までの1名から7名に増えました。女性の育児休職取得率は100%、2007年には男性の育児休職取得者も登場しています。



2007年8月20日「次世代育成支援対策推進法」に基づき、次世代の育成に向けて積極的な支援を行う企業として厚生労働大臣より認定を受けました。

*フレックス社員
当社ではいわゆるパートタイマー従業員をフレックス社員と呼んでいます。

新業態の提案など ビジョンと構想力が必要です。

■テナント開発本部 第2テナント開発部 部長
山元 広美

1999年に転職して旧ダイヤモンドシティに入社しました。当時は女性は一人でしたが、総合職の女性が年々増え、現在私の部では、26人のうち約1/3が女性です。

私は主に、新しく作るモールのリーシングを受け持っています。昨年2月から部長となったので、部内の目標設定や全体の進捗管理なども行っています。

女性の場合、好きなファッションのお店と



交渉したい!といった動機でテナント開発を希望する人が多いのです。でも単に憧れだけではなく、モール全体の魅力を創り出していくためにどんな組み合わせが求められるかのビジョンと構想力が必要です。今後は、駅前の再開発や、まったく新しい業態にもチャレンジしたい。合併を新しい力にして、テナントに提案していきたいですね。

環境・社会貢献関連のコストを把握しています。

SR会計を導入し、

「効果」の定量評価が課題

イオンモールでは2002年度よりSR (Social Responsibility) 会計を導入し、環境保全活動や社会貢献活動のコストの定量的な把握に努め、CSR経営の指標のひとつとしてきました。2007年度は、年度途中の合併により、会計基準が一本化されていなかったこと、モールのメンテナンス企業との委託内容が異なるなどの事情があり、昨年との単純比較はできませんが、傾向を把握するために算出しました。

2007年度の投資額は前年より4億6,160万円減の10億2,183万円となりました。

2006年度はガスコージェネレーションへの設備投資が大きかったこと、また、氷蓄熱システムについて、2007年度は電力会社の資産として経理処理を行ったことが投資額減少の大きな要因です。

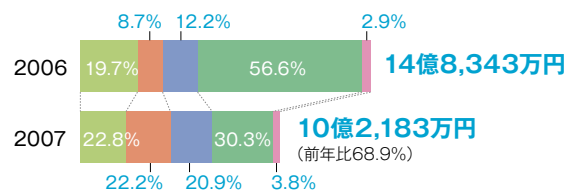
費用は、前年の約2倍の37億6,996万円でした。モール数の増加で廃棄物関係が前年の3倍に増加。公害防止・環境法令順守関連の費用とあわせて全体の8割を占めています。

今後は、投資効果および技術開発動向を把握・検証しながら、高効率の省エネ設備の導入や自然エネルギーの導入検討を行い、省エネ・省コストを図っていきます。

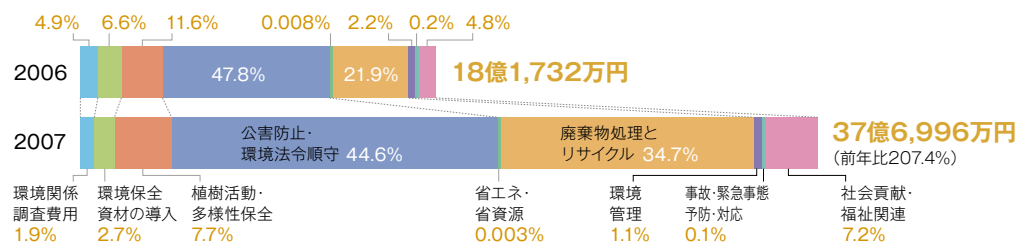
環境保全コストの主な内訳

	投資			費用			(単位: 万円)
	2006	2007	前年比	2006	2007	前年比	
環境関係調査費用	—	—	—	8,934.4	7115.2	79.6%	大店立地法のための調査、交通量調査等
環境保全資材の導入	29,188.5	23,348.6	80.0%	12,002.2	10,327.6	86.0%	投資/リサイクル建築資材など 費用/エコ消火器、再生OA用紙など
植樹活動・多様性保全	12,859.5	22,673.7	176.3%	21,090.9	29,192.6	138.4%	投資/植樹祭、屋上・壁面緑化 費用/育樹祭、植栽管理等
公害防止・環境法令順守	18,163.0	21,377.6	117.7%	86,940.6	168,183.3	193.4%	投資/厨房除害施設、浄化槽中水利用 費用/大気汚染防止、水質汚濁防止
省エネ・省資源	83,802.8	30,913.2	36.9%	16.0	11.2	70.0%	投資/LEDサイン、太陽光発電ほか 費用/文具リユース、節水機器導入
廃棄物処理とリサイクル	—	—	—	39,750.1	130,822.0	329.1%	廃棄物処理・管理費用
環境管理	—	—	—	3,925.7	4,106.2	104.6%	ISO推進、事務局運営、情報発信
事故・緊急事態予防・対応	—	—	—	386.4	228.9	59.2%	地下タンク検査、オイル吸着マットなど
社会貢献・福祉関連	4,328.7	3,870.0	89.4%	8,686.0	27,008.7	310.9%	投資/身障者用駐車場、バルーンシェルター 費用/イオン1%クラブ拠出金ほか
計	148,342.5	102,183.1	68.9%	181,732.3	376,995.7	207.4%	

投資額 償却資産への設備投資のうち、環境保全目的の支出。効果は長期に及ぶ。



費用額 当期の環境保全対策として発生した額。原則として1年間のみ。



期間: 2007年2月21日~2008年2月20日(2007年2月21日から2007年8月20日までの旧ダイヤモンドシティの金額は計上していません)

対象: イオンモール(株) ISO14001適用範囲内とする

①複合コスト・・・環境目的以外のコストと結合している場合についても、原則として全額計上しています。

②人件費・・・イオンモール従業員の人件費は原則として計上していません。ただし、「モール施設メンテナンス」、「モールでの廃棄物処理とリサイクル」は人件費を計上しています。

③投資・・・期中に発生した環境負荷低減の関連機器および施設への投資額で計上しています。(リース契約の場合は、費用に計上)

導入後、移管もしくは変動したものも導入時の金額が判明している場合は投資として計上しています。



環境監査研究会代表幹事、
NPO 法人社会的責任投資フォーラム代表理事

後藤 敏彦

1941年愛知県生まれ。1964年東京大学法学部卒業。
東京経済大学現代法学部の非常勤講師。現在、環境管理規格審議会EPE小委・14005WG委員、環境省化学物質と環境円卓会議メンバー、国交省交通政策審議会環境部会委員、環境コミュニケーション大賞審査委員、日本環境経営大賞審査委員、朝日企業市民賞外部専門委員、日経環境広告賞審査委員などを務める。『環境コミュニケーション入門』（共著）他

使命はコミュニティの創造と文化の発展への寄与

イオンモール広島府中ソレイユを見学させていただき、入社数年の若い女性が大きな権限を与えられ、生き生きと自信をもって環境の取り組みを推進されているのを知りました。同系とはいえ異文化の2社が合併され新しい企業文化創造の試練の時と想像していましたが杞憂でした。異文化の共存、共振、発展への寄与がモールの最大の使命のひとつと考えますので、合併の経験が生かされることを期待します。緒言で社長がコミットされた「地域活性化のお手伝い」ということの本質が上述の使命と思います。

これから海外、特にアジアへの展開では新しい文化の持込と同時に元の文化の発展への寄与も期待されます。文化の価値は、中にいる人には認識されにくく、外からの人によりその価値が発見、発掘されることが多いものです。新しく展開される現地の文化の価値を外からの目で発見、発掘し、持ち込む文化と共振させ、外への発信も手伝うということが期待されています。

現在の46SCを2017年には3倍強の150SC体制にするという意欲的な計画を立てておられます。掲げられました「夢のある未来」（AEON）、「輝きのあるまちづくり」の実現は、コミットされた「コミュニティの創造」を貫徹されることがキーと考えます。



イオンモール広島府中ソレイユにて

CO₂削減のベストプラクティスに

「2017年世界ナンバーワンの環境マネジメントモール」を掲げられました。この中身は特筆ものです。途中の2012年にCO₂を総量で30%、1SC当りにすると58%の削減で、2007年12月の気候変動バリ会議で採択された決議文のひとつにある「先進国は2020年に25～40%削減の必要性」をはるかに先取りするものです。アメニティ空間を提供している事業者としてのベストプ

ラクティスにしていきたいと思いますし、これこそが今すべての事業者に求められている中長期計画の模範と考えます。

また、バリ行動計画は南北問題解決宣言ともいえるものです。上記の取り組みを途上国への展開で役立たせることをコミットされていますが、それこそ企業の役割、すなわちCSRと考えます。次年度以降の報告書ではさまざまな取り組みが紹介されるものと期待していますが、現場でのヒューマンな要素、取り組んだ人の顔や声が分かったら面白いと思います。

シルバー世代への取り組みも記載を

さまざまな取り組みが継続され、それぞれが深まりつつあることが分かります。とくに子どもに関する取り組みはSCごとに工夫をこらして実施されていることが分かります。子どもの感性から感じ取った何かがあるはずですが、それも見えるようにするとともによいと思います。シルバー世代への取り組みも多いと思いますが、必ずしもよく見えませんので次はもっと記載されることを期待したい。子どもの感性とシルバーの智慧のシナジーから何か生まれてくると面白いと思います。

生物多様性への貢献の深化を期待

息の長い植林活動はすばらしいのですが、生物多様性についての取り組みもみえるように期待します。2010年には生物多様性条約の締結国会議（COP10）が名古屋市で開催され、テーマのひとつは民間の取り組みと聞いています。生態系サービスからどんな恩恵をうけ、どんな貢献ができるかを棚卸しすることが第一歩だと思います。

以上のさまざまなことの熟成が「グローバル5」成功の基になると思われます。

最後に、今後ますます多くの情報提供のニーズが高まると思われます。ウェブの併用でどのようにCSR報告を充実させていくかは、ゴールのない永遠の課題であると考えています。



イオンモール サステナビリティレポート「未来への報告書 2008」
の内容についてのご質問・ご意見は下記へお寄せください。

イオンモール株式会社

CSR推進部

〒261-8539

千葉県美浜区中瀬1丁目5番地1 イオンタワービル7階

TEL 043-212-6476 FAX 043-212-6737

当報告書の詳細はイオンモールホームページでご覧いただけます。

<http://www.aeonmall.com>



イオンモールは、環境マネジメントの国際規格である
ISO14001をマルチサイト一括方式で2001年4月
18日に取得しました。



当社は、2004年12月日本政策投資銀行(DBJ)より
環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮
に対する取り組みが特に先進的」と評価されました。



環境に配慮し、植物性ソイ(大豆)
インクを使用しています。



古紙配合率100%再生紙を
使用しています。

2008.7.25 30,000